

愛知医科大学学報



令和6年度医学部卒業記念品
石碑（具眼考究）（レストランオレンジ前芝生）



令和6年度看護学部卒業記念品
ホールクロック（看護学部学生ホール）
（関連記事29頁）

＝ 第178号 ＝
2025.4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

— 愛知医科大学ホームページアドレス —

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

就任ごあいさつ（所信表明）	2
令和7年度予算大綱	6
退職を迎えて	19
修文大学との連携・協力に関する基本協定締結	22
令和6年度卒業証書・学位記授与式	26
令和7年度入学式	30
クリニカルアナトミーセンターの設置	32
ヘルスケア共創センターの設置	32
教授就任インタビュー	33
若葉ナース卒業式挙行政	55



－理事長就任のごあいさつ－

理事長 祖父江 元

令和7年1月28日（火）に開催された理事会で愛知医科大学理事長に再任致しました。改めてその責任の重さを痛感致しますとともに、皆さまのご支援に感謝申し上げます。

前回のごあいさつでは、「人とイノベーション」、「自己実現」、「連携」、「本学の独自性」などをキーワードとして申し上げました。その背景には、「疾病の克服をめざして人の未来を拓く」という目標があります。この考え方は今も変わっていません。これを実現するために、様々な方策を行って参りました。そしてこれからも行っていきたいと考えております。

○中期計画・中期目標の設定と実行努力と評価

昨年の4月に中期計画・中期目標2028を設定しました。これは2024～2028年までの5年間の目標・ミッションになります。内容は、大学のホームページなどに掲載してあり、詳細はご覧いただけるとありがたいと思いますが、その中核は、①財政基盤の確立、②部署別の中期目標の設定と実行・評価、③働き方改革の実質化、④地域医療の革新：循環型医療改革・リハビリ改革・救急体制改革の実質化、⑤世界を見据えた教育・研究の推進、⑥DX推進による経営改革の六つのイノベーション・ストラテジーです。いずれも重要なミッションで、部局ごとに、あるいは大学全体として年次目標を共有して、PDCAサイクル（Plan, Do, Check, Action）を回しながら最終的に5年目には中期目標として達成を目指すというものです。この中のいくつかは既に始まっていますが、これらを実行するための背景には、

患者さんへの思い、社会・地域への貢献、大学への貢献、更には経営に対するコスト感覚の醸成などが重要であることは言うまでもありません。今回のごあいさつの中では、現在進めていることの一部をご紹介します。

○財政基盤の確立

「財の独立なくして学の独立なし」という言葉があります。令和6年度の私立医科大学の収支状況について、まだ最終結果は出ていませんが、約65%の大学病院がマイナスの収支決算となる予想です。本学もこのグループに含まれています。国立大学の附属病院も運営費交付金として国から25%の運営費がサポートされていますが、同様に76%が赤字決算予想で、令和7年度にはいずれも更に収支マイナスが増加すると予想されています。これは、医療材料費、人件費及び光熱費の高騰などとともに、高度医療そのものの赤字構造や、保険制度の歪さなども大きな要素です。本学は、事業全体の約80%が医療収入であり、医療収入の確保が大変重要です。経常収支差額率（収益率）5%が重要なクリティカルポイントであり、収益率5%を目指すことが今後の経営安定化の重要な指標になると考えます。既に5年ほど前から、財政基盤の確立に向けた各種イノベーションの仕込みを進めています。救急医療体制改革、病床53床の活用、リハビリの拡張と活性化、麻酔科・NP改革、メディカルセンター・眼科クリニックMiRAIの開院及び臨床型の若手教授のリクルートなどを進めてきていますが、全体としてこれらの仕込みが効果を発揮するのにはもう少し時間がかか

ると思います。

一方では、即効性の高い種々の病院のアクションプランも進めています。各診療科責任病床設定、各診療科診療目標・指標設定、各診療科へのモニタリング体制、病院長・理事長の各診療科ヒアリング、各診療科ラウンド、休日・平日検査体制・リハビリテーションの拡充、医療経費削減の実施を進めており、病院の職員の大変な努力で、これらは好調を維持しています。いずれにしても今後更に長期的な財政基盤の安定化を目指すシステム改革を進める必要があります。職員の意識改革ということが重要であると考えています。

○大学病院の特定機能病院としての在り方の検討

大学病院においては、特定機能病院としての在り方の検討が行われています。従来の大学病院よりもより特化した、更に上位の特定機能病院として位置付けようという動きです。その背景には、大学病院は診療のみではなく教育、研究及び地域医療・医師派遣などの多機能を担っているにも関わらず、前述のとおり近年の経営事情の悪化により、本来の機能が担えなくなってしまうことへの危惧があります。

また、一方では、大学としての機能を果たしてもらいたいという思いがあります。厚生労働省と文部科学省が連携して、大学病院の財務状況の改善を繋げていこうという議論が進んでおり、大いに期待しているところです。しかし一方では、大学病院の評価・ランキング化に結び付くもので、将来的には勝ち組・負け組化にも繋がってくるかもしれません。大いに期待はされていますが、その設計の内容などは若干慎重に見て行く必要があると思います。

○地域医療への貢献、救急医療・慢性期医療

地域医療においては、いま、地域医療で何が困っているのかという問いかけが重要です。それは、超高齢化に伴う患者数の爆発的な増加と、疾病構造の変化です。パーキンソン病、認知症、心不全、がん、糖尿病・合併症、慢性関節リウマチ、虚血性血管障害、骨折、腎不全など多くの疾患で患者数の爆発的増加

が起こっています。心不全などではoutbreakと言われており、病棟は入院患者さんで溢れています。高齢者救急の対応の仕方、慢性期の再発と進行をどのように抑えるか、また、このような病態をどのように治療するかが重要です。高齢者救急では、TACU（経過観察入院病棟）を利用して患者さんのトリアージを活性化すること、慢性期では、本院の専門医と地域の総合医が連携して一人の患者さんを診る二人主治医制を用いて、普段はクリニックに受診しながら、半年から1年に1回程度、病態診断と治療方針などの評価のため本院に受診してもらうという、言わば患者循環型の診療が重要だと考えています。これは、時間軸を含めて患者さんを地域で支えるという考え方であり、地域医療のあり方が大きく変わってきていると思われます。これを進める上では、専門医とともにジェネラル医としての視点を持つ教育も重要だと思います。本院ではこの点も考慮して、全診療科の専攻医を3か月間救命救急科へ配属し、更に内科全診療科の専攻医を3か月間メディカルセンターへ配属しています。この研修はまだ動き出して2年足らずですが、特に若手の意識が少し変わってきているように感じます。

その他、DXの進展、リハビリテーションの新たな展開として《プロリハ》リハビリテーションの開設、本院とメディカルセンターの新たな連携、働き方改革の進展、私立医科大学31校のうち26校が既に取り入れている独自の給与システムへの変更など、医療関連に関しても多くの課題があります。更に、研究においては臨床研究、企業連携・国際連携及びビッグデータ型研究など、教育においてはアドミッションオフィスの発展、ジェネラリストの養成、NPの更なる導入、企業連携、国際連携など様々な展開がありますが、別の機会に語りたいと思います。

今回のごあいさつでは、事業活動の中の一部だけを紹介しましたが、皆さま方には今後も継続的なご支援をいただければ大変ありがたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



－「安心・信頼・挑戦」が調和した、 より良い医療機関を目指して－

病院長 天野 哲也

このたび、愛知医科大学病院長を拝命致しました天野哲也です。これまで本院において、循環器内科の診療・教育・研究を中心に、多くの患者さんや医療スタッフと向き合いながら医療に従事して参りました。近年は病院経営企画室長や副院長として、医療の質と安全の向上、経営改革、働き方改革、多職種連携及び地域連携の推進など、病院全体の運営にも関わる機会をいただいております。

本院は高度急性期医療を担う大学病院として、これまでも数多くの重症患者さんの治療に取り組み、地域における医療の中核的役割を果たしてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症への対応や、医療経済環境の変化、社会全体の働き方改革への対応など、大きな課題にも直面してきました。このような中で、今後益々「安全で質の高い医療を安定して提供する」とことと、「患者さんにも、職員にも、安心と信頼を感じていただける病院である」ことが重要だと考えております。

まず取り組むべきは、医療の質と安全性の更なる向上です。本年9月には病院機能評価3rdG:Ver.3.0の受審を控えており、全職員が病院機能評価の意義や概要を理解し、一丸となって準備を進めていく必要があります。審査合格に向けてリーダーシップを発揮していきたいと考えています。

次に、持続可能な病院経営の実現に向けた取り組みも急務です。診療報酬の最適化、データ分析機能の強化及び医療材料の適正化など、複眼的な視点から経営の質を高め、限られた医療資源の中で最大限

の医療効果を発揮できるよう努めて参ります。また、研究やイノベーションの推進も大学病院としての大切な役割です。若手医師や大学院生が、日々の臨床業務と両立しながら安心して研究に取り組める体制整備を進めて参ります。

更に、人材の育成と多様性への対応も欠かせません。学生・研修医・若手医師・看護職員に対して、専門性と人間性を兼ね備えた医療人としての成長を支援するとともに、働く全ての職員が自分らしく活躍できる職場環境づくりを進めます。女性医師や子育て世代へのサポート体制、タスクシフトの推進による業務の効率化なども大切な課題です。

地域医療との連携やリハビリ医療の強化、そして救急医療体制の充実も、本院が引き続き果たしていくべき社会的使命です。「顔の見える連携」、「切れ目のないリハビリ」、「断らない救急」をキーワードに、地域の皆さまにとって信頼できる医療の提供を続けていきたいと考えています。

今、愛知医科大学病院は、新しい時代に向けた変革の途上にあります。私はこの病院を「安心・信頼・挑戦」が調和した、より良い医療機関へと成長させていきたいと願っています。そしてそれは、職員一人ひとりの力と想いによって実現するものです。患者さん、地域の皆さま、そして病院の仲間とともに歩みながら、「選ばれる病院」、「誇れる職場」を作っていけるよう、誠心誠意、努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



－本学の更なる発展を目指して－

法人本部長 岩船 徹雄

この度、学校法人愛知医科大学法人本部長を拝命致しました岩船徹雄です。本学の発展に尽力できることを光栄に思い、理事長・学長・教職員の皆さまのご期待に応えるべく全力で職務を遂行する所存です。

私はこれまで、財務・管理室長及び経営戦略推進事務室長として、本学の運営に携わって参りました。財務・管理室では、安定した財政基盤の維持・強化に努め、経営戦略推進事務室では、理事長の下で中期計画の策定など様々なイノベーションプロジェクトに携わりました。これらの経験と知見を活かし、本学の抱える課題解決と更なる発展に尽力して参ります。

現在、医療制度は超高齢化社会への対応を見据え、大きな変革の最中にあります。地域包括ケアシステムの構築や医療費抑制策が進む中、病院経営は厳しい環境に直面しています。本学も例外ではなく、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、アフターコロナにおける大学経営の立て直しが重要課題となっています。令和元年度以降、補助金等の支援策を活用しながら運営を続けてきましたが、今後は確実な経営による黒字化を目指し、経営基盤の強化とともに、イノベーションの仕組みを構築することが求められます。

また、進行中である医師の働き方改革については、勤務時間管理の厳格化、宿日直許可制度の適切な運用、業務の分担、柔軟な勤務時間制度の導入など、様々な取り組みが進んでおります。同時に多くの課題も顕在化してきました。今後は、医師のみならず、看護師を始めとする病院全体のチーム医療を強化し、時間外労働の削減と負担軽減に繋げていくことが重要です。本学は大変働きやすい職場として、個人の貢献が給与に反映されるような制度改革にも取り組

んでいかねばなりません。

本学の更なる発展には、教育・研究・診療のすべての分野において人材育成が不可欠です。50年余の歴史を刻んだ私立医科大学として、多くの卒業生が地域医療に貢献しており、本学出身者の教授が多数輩出されることは、学生の育成とリクルート面でも非常に重要な要素です。法人本部としても、教育環境の整備と研究者の育成支援に努めて参ります。

また、現代社会においては、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が不可欠です。本学の中期計画においても経営改革の核としてDXを位置付けており、診療業務の見直し、業務効率化、患者サービスの向上、教育・研究の質の向上のために積極的にDXを推進します。特に、電子カルテ情報の共有及びオンライン診療の普及は、国を挙げて進められている重要な課題です。本学としてもこれらの動向を踏まえ、患者さんにとってより便利で質の高い医療を提供できるよう努めて参ります。そのためには今までとは違った働き方が求められます。意識改革から始め、個々の生産性を挙げていかねばなりません。

法人本部長である私の役割は、事務部門のトップとして組織運営を円滑に行い、理事長・学長を強力にサポートしながら、大学の戦略遂行を推進し、経営改善を図ることにあります。教職員の皆さまとの緊密な連携を通じ、それぞれの専門性と経験を尊重しながら、大学全体の目標達成に向けて一丸となって取り組んで参ります。

結びにあたり、本学の更なる発展のため、教職員の皆さま、学生の皆さま、そして関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げ、就任のごあいさつとさせていただきます。

令和7年度予算大綱

令和7年度予算が、令和7年3月24日（月）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

令和の時代を迎え、法の求めを踏まえた中期計画を策定し、様々な事業を進めて参りました。令和元年から5年までの中期計画では、事業基盤の強化を柱とするプロジェクトを掲げ、推進してきました。その締めくくりとなる大型整備として、令和7年1月23日（木）に新たなリハビリテーション医療施設《プロリハ》リハビリテーションの運用が開始され、本学の事業基盤の整備が一段落つきました。

令和6年度から新たに始まった5年間の中期計画では、令和10年度の目指すべき姿として「社会から評価され選ばれる医科大学で在り続ける」を掲げ、イノベーション・ストラテジー 2028として六つの項目を推進することとしています。その2年目を担うのが令和7年度事業です。

令和7年度予算を編成するに当たり、本学が検証した状況は、令和元年度から実施してきた一連のプロジェクトに投じた経費に対し、その効果が現れるには時間を要するものの、維持費や増員した人件費、減価償却費は即計上を求められているというものです。更に、昨今の物価高騰及び人件費の増加を受けて、物品の調達コストや委託経費等の大幅な増加が求められる状況にあります。こうしたコスト上昇を価格に反映できる業種は別として、収入の8割を医療収入が占める本学では、保険診療に係る報酬改定が期待に届かず、財政面では厳しい見通しを強いられる状況となりました。

令和6年度は、厳しい状況の中でも職員の生活を守り、働く意欲を維持するため、人事院勧告に準拠した給与改定を完全実施しました。令和7年度予算では更に人件費の大幅な増加が見込まれ、収支の悪化要因がある中で、一般的な経費の強力な削減努力を行いながら5か年計画の達成に向けて機器や施設の更新を進め、教育・研究・診療への影響を最小限に留めるという、大変困難な編成作業が行われました。

具体的な収支対策として、診療活性化策に投じた

経費に対し、期待した収入をより確実に確保するためのモニタリング体制を強化しました。各診療科責任病床の設定、各診療科診療目標・指標の設定、理事長・病院長による定期的な各診療科ヒアリング・ラウンドの実施、平日検査体制の実施時間の拡大及び土曜日の検査実施など、即効性のある本院のアクションプランを進めることで、予算規模は収入・支出とも650億円を超え、令和7年度の中期計画額を上回る規模となりました。

全体的な事業を見渡すと、大型事業となる機器及び設備の整備に関しては、基本的に現在使用しているものの更新を中心に進めています。経費の予算編成は節減を目指していますが、医療活動に応じて必要となる医療経費等については、増額を確保しています。

教育分野では、学生用証明書自動発行機の更新、実習用シミュレーターの更新、学務情報サーバーや入試業務システムなどの改修を行います。特に看護学部では、令和7年4月から待望の看護学研究科博士後期課程が開設され、看護学博士（Ph.D）及び看護実践博士（DNP）の二つのコースで学生の受け入れが始まりました。また、老朽化に伴い継続的にリニューアルが求められていたクラブハウスの改修も予定しています。

<主な事業>

教育・研究に関するもの

■教育環境の整備

○機材及びシステムの新規導入または更新

- ・学務情報システムのサーバー等の入れ替えを実施する。
- ・研究棟107号室（感染免疫学・社会医学実習室）の実習室椅子120脚を更新する。
- ・シミュレーションセンターに設置の高機能シミュレーターの定期メンテナンスを行う。
- ・実践的な看護教育を行い、効果的な学習を可能とするため、装着×据置タイプの導尿&浣腸シミュレーターを更新する。

○特定資産を財源とする事業

- ・外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。
- ・医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。
- ・看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。

■研究環境の整備

○機材及びシステムの新規導入または更新

- ・P2ウイルス感染実験施設（315号室）の拡充に伴うBSL2対応と管理体制の強化を図る。
- ・新機種IncuCyte S3を導入し、ライブセルイメージングを活用した新規治療薬シーズの探索を効率的に行う。
- ・研究棟法医学講座311号室の北側空調を更新し、測定機器の精度を維持する。

○私立大学研究ブランディング事業

- ・私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。

■研究活動の活性化

○私立大学研究ブランディング事業

- ・「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。

■教育充実活性化対策

○医学部における教育充実に向けた取り組み

- ・教育の充実化に貢献した講座等に対してインセンティブを支給する。

■看護学研究科博士後期課程設置

- ・看護学研究科博士後期課程設置のための整備事業

■その他

○東海がん専門医療人材養成プラン

- ・令和5年度から令和10年度までの6年間で、次世代のがん対策の基盤を担う専門医療人を養成するための教育プログラムを大学間連携によって開発・実施する。

○教員の研修事業

- ・教員に対して多彩な研修を実施し、全教員に対してスキルアップの機会を多く提供し、継続的な教育改革を実施する。

○証明書自動発行機更新

- ・学生用証明書自動発行機の更新を行う。

○クラブハウスリニューアル

- ・トイレ・シャワー室の衛生器具交換，LED照明への更新などクラブハウスの改修を行う。

○医学部入試業務システムの改修

- ・合否判定資料作成機能をシステムに追加する。

○トレーニングマシンの更新

- ・運動療育センターにおいて老朽化した主力トレーニングマシンの入替更新を行う。

本院の医療に関するもの

■教員・スタッフの増員

○形成外科助教の増員

- ・形成外科助教定数を1名増員し，外傷や再建手術，救急診療への対応強化を図る。

○産婦人科学講座教授の増員

- ・産婦人科学講座の教授定数を1名増員し，更なる体制強化を図る。

○パーキンソン病総合治療センター准教授の増員

- ・パーキンソン病総合治療センターの准教授定数を1名増員し，更なる体制強化を図る。

○セラピストの増員

- ・新リハビリテーション施設《プロリハ》リハビリテーションに係る医療スタッフを20名増員する。

○診療看護師（NP）の増員

- ・麻酔科を含む診療支援のため診療看護師を4名増員する。

○精神福祉士の増員

- ・認知症治療支援，退院支援，虐待対応などのため，精神福祉士を1名増員する。

○作業療法士の増員

- ・精神科作業療法の開始のため，専従の作業療法士を1名増員する。

○歯科衛生士の増員

- ・歯科口腔外科の診療業務安定のため，歯科衛生士を1名増員する。

○救命救急士の増員

- ・効率的な医療体制確立のため，救命救急士を1名増員する。

○中央臨床検査部技師の増員

- ・検査件数増加に対応するため，超音波担当検査

技師を1名、診療放射線技師を2名増員する。

■診療活性化対策

○麻酔科医の確保

- ・手術件数の増加、GICUにおける安定的な医療体制の拡張、麻酔科当直体制の強化を目的とした麻酔科医の確保を図る。

○病院長インセンティブの支給

- ・病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし、各種項目を裁量評価することで、成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。

○転院調整システムの導入

- ・システムを導入し、退院調整業務の簡略化と、電話やFAXでのやりとりを削減し、患者の早期転院を目指す。

■診療用機器の整備・更新

○小径腎腫瘍における凍結療法の導入

- ・冷凍手術器を導入し、県内でのがん治療に特化した治療方法を持つ病院を目指す。

○各種機器装置の更新

- ・高精度放射線治療装置
- ・EICUで使用している人工呼吸器
- ・NICU生体情報モニター
- ・DICOM動画サーバー

○オンライン資格確認端末の増設

- ・マイナンバーカードの保険証利用に対応するため、オンライン資格確認端末を増設する。

○ドクターカーの更新

- ・クラウドファンディングによる寄付金を原資として、ドクターカーの更新を行う。

メディカルセンターの医療に関するもの

■スタッフの増員

○セラピストの増員

- ・リハビリテーション医療の充実に向けて、理学療法士7名、作業療法士1名、言語聴覚士1名を増員する。

○看護補助の増員

- ・南4階病棟開棟に向けて看護補助7名を増員する。

■診療活性化対策

○シャトル便の増便

- ・本院とメディカルセンター間のシャトル便について、患者搬送の活性化を見据え、現在の4便から6便に増便する。

■その他

○南4階病棟開棟

- ・南4階病棟開棟に向けて、施設・備品の整備を行う。

○高圧受変電設備の更新

- ・20年以上経過した高圧受変電設備について、電源供給の信頼性を確保するため更新する。

眼科クリニックMiRAIの医療に関するもの

■診療活性化対策

○患者予約システムの導入

- ・患者紹介にWebシステムを導入し、患者紹介手続きの利便性を向上させる。

○広報事業

- ・大学レベルの高度な治療を行う眼科クリニックとして紹介元医療機関の開拓及び眼科をお探しの個人への訴求のための各種広告展開を図る。

■診療用機器の整備

○IPCコンソール、鼻内視鏡システムの整備

- ・眼形成の日帰り手術に対応する医療機器を整備する。

法人・大学運営に関するもの

■建物修繕

○中央棟第1無停電電源装置（1系）蓄電池の更新工事

- ・停電時において重要な医療設備に無瞬断で電源を供給する。

○構内電源ケーブル等更新工事

- ・構内に張り巡らされている高圧電力ケーブルのうち、敷設から24年が経過し、経年劣化したケーブルを更新する。

○G-2、G-3非常用発電機廃止に伴う改修工事

- ・30年を超えた非常用発電機を更新するに当たり、中央棟の非常用発電機から送電できるように改修工事を行う。

○体育館及び武道場吊天井の耐震対策工事

- ・国土交通省の定めた基準を満たすよう、天井の

脱落対策を行う。

■その他

○経営改革・イノベーション推進事業

- ・理事長直轄の組織である経営戦略推進本部において、①地域医療連携推進、②救急医療体制改革、③働き方改革、④財政基盤改革、⑤中長期

計画、⑥本学事業部門の再編、⑦リハビリテーション学部構想、⑧その他に取り組む。

○消防用設備予備電源（蓄電池）更新

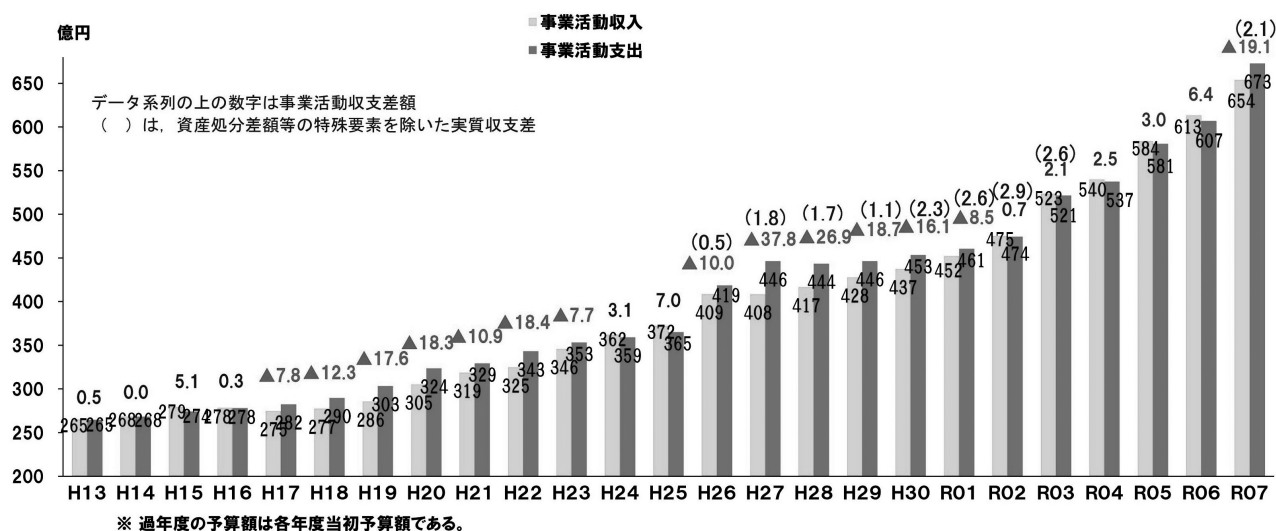
- ・中央棟を中心に、本学構内に設置されている消防用設備の予備電源劣化部品を交換し、消防法に定められた技術基準に適合させる。

令和7年度の予算状況は、

事業活動収入 653億7,396万余円

事業活動支出 672億8,341万余円（※賞与引当金組入額含む）

となっており、事業活動収支差額は19億0,944万余円の赤字となっていますが、学校法人会計基準の改正に伴い令和7年度より計上する賞与引当金組入額(21億1,826万余円)を除くと、事業活動収支差は、2億0,882万余円の黒字となっています。



事業活動収支予算では、収入65,373百万円（前年度比6.51%増）、支出67,283百万円（前年度比10.8%増）となり、収支差は1,909百万円の赤字予算となりますが、学校法人会計基準の改正に伴い、賞与引当金繰入額2,118百万円を新たに予算計上しているため、これを除くと208百万円の黒字予算となります。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,933百万円、寄付金収入334百万円、補助金収入2,504

百万円、医療収入55,641百万円などで資金収入合計は6,180百万円となっています。

一方、人件費支出24,427百万円、教育研究費支出33,983百万円、管理経費支出1,094百万円、施設関係支出1,217百万円、設備関係支出2,192百万円、借入金等返済支出1,093百万円などで資金支出合計は65,569百万円となっています。

資 金 収 支 予 算

令和7年4月1日から

令和8年3月31日まで

収 入 の 部			
科 目	本年度予算	前年度（5月補正後）予算	増 減
学生生徒等納付金収入	4,933,460	4,900,055	33,405
手数料収入	198,618	202,603	△3,985
寄付金収入	333,810	396,410	△62,600
補助金収入	2,503,679	1,876,530	627,149
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	920,706	896,429	24,277
医療収入	55,641,098	52,247,072	3,394,026
受取利息・配当金収入	9,550	1,490	8,060
雑収入	803,043	825,516	△22,473
借入金等収入	150,000	150,000	0
前受金収入	920,871	939,172	△18,301
その他の収入	9,942,026	9,357,838	584,188
資金収入調整勘定	△10,177,010	△9,180,347	△996,663
前年度繰越支払資金	5,920,907	7,641,400	
収 入 の 部 合 計	72,100,758	70,254,168	1,846,590

支 出 の 部			
科 目	本年度予算	前年度（5月補正後）予算	増 減
人件費支出	24,426,870	22,718,646	1,708,224
教育研究経費支出	33,983,347	31,414,424	2,568,923
管理経費支出	1,093,881	1,097,693	△3,812
借入金等利息支出	193,960	207,311	△13,351
借入金等返済支出	1,093,233	974,346	118,887
施設関係支出	1,216,790	1,532,667	△315,877
設備関係支出	2,191,660	1,921,504	270,156
資産運用支出	150,000	150,000	0
その他の支出	7,642,791	7,921,253	△278,462
〔 予 備 費 〕	500,000	500,000	0
資金支出調整勘定	△6,923,097	△6,707,876	△215,221
翌年度繰越支払資金	6,531,323	8,524,200	△1,992,877
支 出 の 部 合 計	72,100,758	70,254,168	1,846,590

事業活動収支予算

令和7年4月1日から
令和8年3月31日まで

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		学生生徒等納付金	4,933,460	4,900,055	33,405	
		手数料	198,618	202,603	△3,985	
		寄付金	335,810	398,410	△62,600	
		経常費等補助金	2,310,079	1,849,284	460,795	
		付随事業収入	920,706	896,429	24,277	
		医療収入	55,641,098	52,247,072	3,394,026	
		雑収入	803,043	825,516	△22,473	
		教育活動収入計	65,142,814	61,319,369	3,823,445	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		人件費	26,726,377	22,871,922	3,854,455	
		教育研究経費	38,526,599	35,854,165	2,672,434	
		管理経費	1,496,475	1,463,193	33,282	
		徴収不能額等	0	3,341	△3,341	
徴収不能引当金繰入額		0	3,341	△3,341		
教育活動支出計		66,749,451	60,192,621	6,556,830		
教育活動収支差額			△1,606,637	1,126,748	△2,733,385	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		受取利息・配当金	9,550	1,490	8,060	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	9,550	1,490	8,060	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		借入金等利息	193,960	207,311	△13,351	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	193,960	207,311	△13,351	
	教育活動外収支差額			△184,410	△205,821	21,411
	経常収支差額			△1,791,047	920,927	△2,711,974
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	221,600	55,246	166,354	
		特別収入計	221,600	55,246	166,354	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（５月補正後）予算	増 減	
		資産処分差額	40,000	20,000	20,000	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	40,000	20,000	20,000	
	特別収支差額			181,600	35,246	146,354
	〔予 備 費〕			300,000	300,000	0
基本金組入前当年度収支差額			△1,909,447	656,173	△2,565,620	
基本金組入額合計			△4,100,000	△4,100,000	0	
当年度収支差額			△6,009,447	△3,443,827	△2,565,620	
前年度繰越収支差額			△79,855,278	△73,800,463	△6,054,815	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△85,864,725	△77,244,290	△8,620,435	
（参考）						
事業活動収入計			65,373,964	61,376,105	3,997,859	
事業活動支出計			67,283,411	60,719,932	6,563,479	

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金のご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学は、昭和46年に設置認可を受け、翌昭和47年4月に医学部の第1回生を迎え入れました。その後、大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院体制となっています。

本学は「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、学是「具眼考究」の理念の下、教育・研究・診療の各分野で勇往邁進に取り組んで参りました。

今後、更に社会から評価され、選ばれる医療人の育成、安心・安全の信頼できる先進医療の提供、地域とともに歩む医療の推進、新たな医学・医療の開拓、将来へ向けたキャリアパスの描ける場の提供など、時代の変化に合わせた、あるいは先取りする柔軟な変革に取り組んで参ります。

より良い大学、より良い病院となるため、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

① 募金目的

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業

② 募金1口の種類

個人：1万円 法人：5万円

（できるだけ多数口のご支援をお願いします）

③ 税制優遇措置

個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等

法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の方法

<書面（郵送）>

- ・本学HPから必要な書類をダウンロード又は本学から書類を送付します。
- ・寄附申込後、別途お振込みなどをお願い致します。

<インターネット>

- ・本学HPからお申込みいただき、クレジットカード、コンビニエンスストア等を利用するお支払いが可能です。

顕彰について

- ① 広報誌・ホームページ等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）



プレート芳名板
（大学本館1階ロビー）



タイル芳名板
（中央棟エントランスウェイ西側）



●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL : 0561-63-1062 (受付時間8:30～17:15 土日祝日を除く) ✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

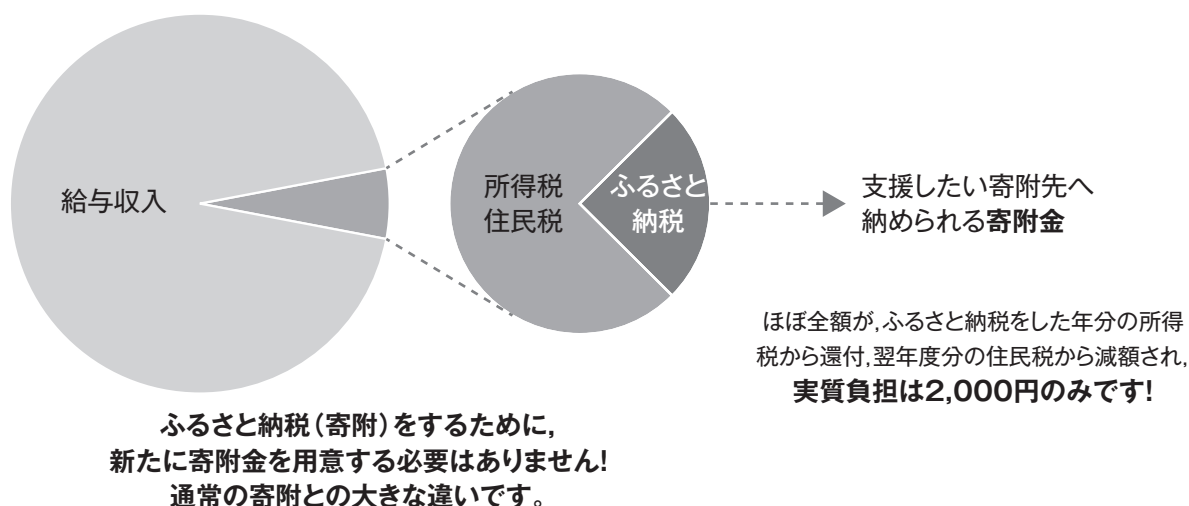
ふるさと納税（寄附）のご協力をお願い

長久手市では「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し、市内の4大学を応援する「ながくて4U応援プロジェクト」が立ち上げられ、令和6年10月25日（金）から本学への寄附が開始されました。本学は「いのちを救い、健康を守り、地域を支える。」未来の医療人の育成を中心に、大学の教育研究活動の推進に資する事業に活用するため、本プロジェクトに参画しています。



長久手市との記者発表
(左から祖父江元 学長、佐藤有美市長)

育ててくれたふるさと、お世話になった場所を納税先を選ぶことで、支払う税金の中からふるさと納税（寄附）とは？▶ら寄附できる制度です。寄附金控除として、2,000円を超える部分については全額が所得税や住民税から控除されるため（上限額あり）、寄附者の実質負担は2,000円です。



給与収入500万円の人が〔共働き子1人（大学生）〕
ふるさと納税（寄附）の控除上限額44,000円まで寄附した場合
所得税・住民税の控除により、
42,000円減税

- ・長久手市に在住の方も寄附することが可能です。
- ・長久手市からの返礼品はありませんが、金額に応じて本学からの御礼を用意しています。
- ・本学HPから申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、メール又は郵送で本学までお申込みください。



●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL : 0561-63-1062 (受付時間8:30～17:15 土日祝日を除く) ✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

島田孝一法人本部長の退任 ～15年を振り返って～

令和7年3月31日（月）午後4時45分から大学本館たちばなホールにおいて、長年にわたり本学に勤務されました島田孝一法人本部長の退任式があり、多くの職員が出席しました。ここに、これまでのご功労について語られた島田法人本部長のごあいさつをご紹介します。

この度、令和7年3月末をもって、15年務めました法人本部長を退任致しました。大変永きにわたりお世話になって来て、感謝の気持ちで一杯です。

さて、私が愛知医科大学の土を踏んだのは、平成22年3月のことでした。三宅養三理事長と羽根田雅巳事務局長を交えて面談しましたが、その時は、北風に土埃の立つ平面駐車場が新病院の建設予定地とは知りませんでした。

法人本部長就任後、三宅理事長との調整の中で、核心となる会話が二つありました。『新病院をどうしても建てたいが、この状況で建つだろうか?』、『借入金を活用すれば、建ちますよ。その時は保証人になってください。』、『分かった。佐藤啓二委員長（後の学長）の纏めた以上の設計はない。大地震が来る前にそのとおり建ててくれ。』、『全力で作業を急ぎます。』

新病院の建設計画は止まっていました。理由は主に資金問題でした。建設費にと留保してきた資金が、高配当を狙ってリスクの高い運用に回されていて、そこにアメリカ発の金融危機・リーマンショックが襲い掛かったという訳です。当時本学が持っていた債券は確かに高配当でしたが、一度金融危機が起きると、大きな損失を被る仕組みとなっていました。法外な価格で外貨を買わされるという取引も紛れ込んでいて、損失は一体いくらまで膨らむものとなり、理事長の指示で、資金運用委員会に専門家を迎え検討されました。

この不況に対し、国は、無担保低利の融資策を打ち出しました。本学は前記委員会の方針に従い、債券を急ぎ処分することはせず、国の施策を活用し、当面の資金対策をしました。債券を持ち続けたことで、景気の回復とともに、資金回収が進みました。

また、大地震が来る前にと計画の具体化を急いことから、先行する支障物件の解体工事と続く本体工事を同一業者の請負としたこともあって、その後、建設費高騰の発端となる、東日本大震災の前に入札が行われ、高騰直前に工事請負契約を結ぶことが出来ました。

発注後、国によるスライド条項の発動もなく、契約どおり工事は進み、平成25年1月に上棟式の日を



退任あいさつを述べる島田法人本部長



祖父江元 理事長からの花束贈呈

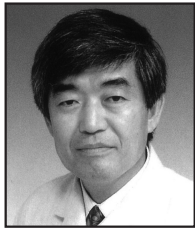
迎えました。この日、新病院建設に大変骨折られた理事が「嬉しい。」と声を上げて泣かれました。終生忘れられない事です。肩を抱かれて私も涙が零れました。

新病院完成を機に本学は一段と発展し、祖父江元理事長の許、令和3年に、岡崎市に待望の分院がメディカルセンターとして開院し、翌4年には名古屋市東区に、眼科クリニックMiRAIがオープンしました。続いて5年から6年にかけてD棟の休床53床が中央棟に復床するなど、重要な基盤整備が進み、医療収入は、平成21年度の230億円が、15年後の令和6年度には、490億円に届こうかという勢いです。

新病院の地下には、158基の強力な免震装置が据え付けられています。いよいよ近いかと身構える東南海地震ですが、この新病院は、必ず持ちこたえてくれるはずです。語り尽くせませんが、紙面が尽きました。大学運営を取り巻く環境が厳しさを増す中、新病院を中核とし、本学が限りなく発展することを祈念し、筆を置きます。本当に長い間、有難うございました。

訃 報

松本 義也名誉教授 御逝去



令和7年2月1日（土）に松本義也名誉教授（皮膚科学講座）がご逝去されました。享年81歳でした。

松本先生は昭和45年に名古屋大学医学部を卒業後、遠州総合病院、市立岡崎病院、中部労災病院に勤務されました。名古屋大学医学部皮膚科学講座・助教授を経て、平成11年8月に愛知医科大学皮膚科学講座・教授に就任し、約10年にわたり臨床・研究・教育に尽力されました。また、情報処理センター長、薬事委員長及び評議員などを歴任し、本学の

発展に多大な貢献をされました。

皮膚科学においては、特に光線力学的療法（PDT）に関する研究で日本における第一人者として、日光角化症やボーエン病の治療プロトコルを確立し、ガイドライン作成にも寄与されました。加えて、日本皮膚科学会を始めとする多数の学会で評議員を務め、学術大会の会長も歴任されたほか、愛知県教育委員会健康審査委員、愛知県医師会難病相談委員などの社会活動にも貢献されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んで御冥福をお祈り致します。

訃 報

土岡 弘通名誉教授 御逝去



令和7年3月23日（日）に土岡弘通名誉教授（旧外科学第2講座）がご逝去されました。享年95歳でした。

土岡先生は昭和30年に名古屋大学医学部を卒業後、名古屋大学医学部助手（外科学第1講座）、同附属病院助手（第1外科）を経て、昭和48年7月に本学外科学第2講座の助教授に就任、昭和55年4月に同教授に昇任されました。

また、大学院担当教授を兼務し、医学研究科の創設に尽力するとともに、その運営にも貢献されました。副院長、病院長を務め、病院の運営と発展に努められたほか、教務部長、医学部保健学科設置準備室長、看護専門学校長を歴任し、本学の教育・診療・研究の充実と向上に貢献、更に評議

員及び理事に就任し、学校法人の運営にも大きく尽力されました。

外科学においては、特に胸部・心臓血管外科学分野の教育及び研究に努められ、この分野での診断、手術及びQOLを考慮に入れた遠隔成績の向上に貢献されました。心臓外科手術では弁疾患の分野の研究に力を入れ、弁疾患手術においては我が国の草分け的存在で、各学会でのシンポジウム、パネルディスカッションなどにも数多く出席し診療成績の向上に貢献されました。

加えて、日本心臓血管外科学会を始めとする多数の学会で理事及び評議員を務め、厚生省特定疾患のうち系統的血管病変に関する調査研究班などの社会活動にも貢献されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んで御冥福をお祈り致します。

学校法人愛知医科大学「過半数代表者」選挙実施

本学の過半数代表者に、古山昂勢さん（病院事務部臨床研究審査事務室・主査）が立候補し、令和7年3月6日（木）午前9時から3月10日（月）午後4時までの信任投票において、信任1,428票（有権者数2,788名（過半数1,395名））を獲得し、選任されました。任期は、令和7年4月1日から2年間です。

労働基準法では、36（サブロク）協定を始めとした労使協定等を締結する場合、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合にはその組合、ない場合には、労働者の過半数を代表するもの（過半数代表

者）と締結する必要があると定めています。

過半数代表者の責務は、①労働基準法で定められた書面による協定の締結、②就業規則の作成又は変更についての意見書の提出、③安全衛生委員会委員の推薦その他法令で定められた権限の行使等です。また、労働基準法施行規則には、選出方法として、過半数代表者を選出することを明らかにして実施される投票等の手続きによって選出しなければならないことが定められています。

役員・評議員の異動

【理 事】

就 任 天野 哲也（令和7年4月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

【評議員】

退 任 天野 哲也（令和7年3月31日付）

名誉教授称号授与式挙行

令和7年3月31日付けをもって退職された風岡宜暁教授（歯科口腔外科学講座）、春日井邦夫教授（内科学講座(消化管内科)）、道勇学教授（内科学講座(神経内科)）、坂本真理子教授（地域・在宅看護学）に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され、令和7年4月14日（月）正午から大学本館役員会議室1において授与式が行われました。

授与式には、祖父江元 理事長・学長を始め、笠井謙次副学長（医学教育担当）、若杉里実副学長（看護学教育担当）、岩船徹雄法人本部長、羽根田雅巳事務局長が出席し、祖父江理事長から称号記が授与され、記念撮影が行われました。



出席者による記念撮影

記念撮影後、昼食を交えた懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、午後1時に授与式は終了しました。

令和7年度職員新任式挙行

令和7年4月1日（火）午前9時から、大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度職員新任式が挙行されました。

式では祖父江元 理事長から「皆さんには自分や自部署の目的と役割を意識し、コスト感覚やミッション感覚を持ちながら活動してもらいたい。皆さんが将来の愛知医科大学を担う人材となることを期待しています。本日は本当におめでとうございます。」とのあいさつがありました。

なお、今年度の参加者は226名で、看護職員167名、



出席者による記念撮影

医療職員51名、事務職員7名、技術職員1名です。

主な役職者の改選

○ 大 学

【副 学 長（診 療 担 当）】



天野 哲也

(内科学講座(循環器内科)・教授)

この度、副学長（診療担当）を拝命致しました。病院長として、大学と附属病院の連携を更に深めるとともに、医療の質と安全性の向上及び次世代を担う医療人の育成に努めて参ります。急速に変化する医療環境の中で、柔軟かつ持続可能な診療体制の構築を目指し、愛知医科大学の発展に貢献できるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(新任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【副 学 長（特 命 担 当）】



佐藤 元彦

(生理学講座・教授)

引き続き、公的研究費管理・研究不正防止等担当副学長（特命担当）を拝命しました。今年度より、安全保障輸出管理体制が新しい形で運営されています。一定の柔軟性も担保しながら運営して参りたいと思いますので、ご理解ご協力よろしくお願い致します。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 8. 3. 31)

【副 学 長（特 命 担 当）】



伊藤 理

(内科学講座(呼吸器・アレルギー内科))

この度、副学長（特命担当）を拝命致しました。ダイバーシティ推進、教員評価及びホームページの3委員会を担当します。職員の皆さまが個性に応じて能力を発揮できるよう、環境整備に努めて参る所存です。本学の魅力を情報発信して参りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

(新任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 8. 3. 31)

【研究創出支援センター長】



武内 恒成

(生物学・教授)

研究創出支援センターは、バイオバンクの整備充実と科研費等の外部資金調達を含めた研究支援を進めて参りました。URAは企業連携などを行うものではなく、大きく変動している国内外の研究環境に対応するために必須であり、その体制強化は重要事項です。URAにより最先端の情報を取り入れながら、学内の研究力の質的向上のため貢献できるよう取り組んで参ります。よろしくお願い申し上げます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【国際交流センター長】



都築 豊徳

(病理診断学講座・教授)

引き続き、国際交流センター長を拝命致しました都築と申します。本学の国際交流事業を統括する役割であり、学生並びに教職員の国際交流、英語能力向上、異文化コミュニケーションの理解を促すセミナーの開催、本学で学ぶ外国人研究者の支援等を行っております。ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【アドミッションセンター長】



仙石 昌也

(アドミッションセンター・教授)

この度、アドミッションセンター長を拝命致しました。昨年9月に設置された本センターは、入試に関する調査・分析、選抜や募集に関する企画・立案、入試業務の実施及び運営の監督・助言、更には入試広報活動などを通じて、本学の発展に寄与できるよう尽力して参ります。

(新任, 任期: R 6. 9. 1 ~ R 8. 3. 31)

【分子医科学研究所長】



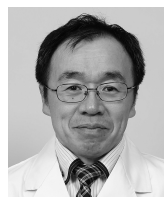
細川 好孝

(生化学講座・教授)

引き続き、分子医科学研究所長を拝命致しました。本研究所は糖鎖研究で世界的な成果を挙げてきましたが、今後はビッグデータを駆使した医学研究が益々重要になってくると考えております。このような新たな方向性を念頭に置いて、本学の更なる医科学研究の発展に取り組んで参ります。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 8. 3. 31)

【運動療育センター長】



牛田 享宏

(疼痛医学講座・教授)

引き続き、運動療育センター長を拝命致しました。患者さんだけでなく、健常者の方においても活動性の低下から運動器の障害やメタボリック症候群になる方が増えてきています。センターでは、それぞれの方の状態に応じた適切な運動処方を行い、QOLの向上でもって皆さまに応えていきたいと存じます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

○ 医学部

【メディカルセンター病院長】



羽生田 正行

(メディカルセンター・特命教授)

引き続き愛知医科大学メディカルセンター病院長を拝命しました。本センターは開院5年目を迎えますが、今後も地域多機能病院として地域医療に貢献できるよう努力を続けて参ります。また、地域医療を実践する場を提供し、愛知医科大学での教育の一端を担って参ります。皆さまのご支援よろしくお願い申し上げます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【薬毒物分析センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

中毒事例に対応できるよう、高度救命救急センターとの連携を密に取りながら取り組んでいきたいと思ひます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 8. 3. 31)

【医学教育センター長】



早稲田 勝久

(医学教育センター・教授)

引き続き医学教育センター長を拝命しました。4学年次で実施している共用試験が公的化となり、臨床実習の充実が益々求められています。また、令和8年度は医学教育分野別評価の2巡目受審が控えており、本年度から準備を進めていきます。皆さま方の協力のもと、社会のニーズに応えられる良き医療人を育成したいと思ひますので、よろしくお願い致します。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【産業保健科学センター長】



鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

引き続き、産業保健科学センター長を拝命致しました。働き方改革や健康経営など、社会の変化とともに移り変わる多様な労働状況を客観的に把握し、科学的なエビデンスを基に、働く人々の健康増進、疾病予防を進めることで、社会に貢献して参りたいと思ひます。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【シミュレーションセンター長】



早稲田 勝久

(医学教育センター・教授)

引き続きシミュレーションセンター長を拝命致しました。本学には多くの高機能シミュレータがあり、これらを一層活用し、施設・研修内容の整備と充実に努めていきたいと思ひます。医学部や看護学部卒前教育のみならず、研修医や看護師など病院の医療スタッフや学外の医療関係者の教育にも貢献できるよう活動していきまひす。

(再任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

【クリニカルアナトミーセンター長】



内藤 宗和

(解剖学講座・教授)

この度、クリニカルアナトミーセンター長を拝命致しました。本センターは、遺体を用いた手術手技研修(CST)の適正な実施を通じ、医師の技術向上に寄与することを目的と

していまひす。今後も研修の充実に努めて参りますので、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

(新任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 9. 3. 31)

○ 看護学部

【ヘルスケア共創センター長】



心光 世津子

(精神看護学・教授)

この度、ヘルスケア共創センター長を拝命致しました。本センターは、看護実践研究センターと看護連携型ユニフィケーション推進事業の発展的統合により、令和7年4月から新たに設置されました。少子高齢化・人口減少が急速に進行する中、医療・看護をとりまく状況変化への対応が重要性を増していまひす。大学・病院・地域がより一層繋がり合い、ヘルスケアを共に創造していくことができるプラットフォームづくりに取り組んで参ります。

(新任, 任期: R 7. 4. 1 ~ R 8. 3. 31)

—退職を迎えて—

“長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力いただける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待致します。



春日井 邦夫 先生

(内科学講座(消化管内科)・教授)

支えられて～愛知医大とともに歩んだ28年～

平成9年1月に旧内科学第2講座に着任した当時、内科学講座は四つに分かれており、それぞれに消化器内科が存在していまひました。お互いに得意分野を活かしながらか切磋琢磨していまひましたが、平成13年の臓器別診療科再編により、内科学講座(消化器内科)として統合されました。

私は内視鏡を中心としたグループを担当し、平成17年に新設された内視鏡センターの初代部長として、

内視鏡医療の発展・充実に尽力しました。その結果、年間内視鏡件数を1万件まで増加させることができました。更に、平成18年には愛知医科大学新病院建設委員会の委員となり、特に外来診察室の設計・運用の責任者として貴重な経験をさせていただきました。

平成19年には内科学講座(消化器内科)の教授(現在の内科学講座(消化管内科))に昇任し、以来、医局員とともに臨床・教育・研究に邁進して参りました。

多くの方々に支えられ、医師人生の3分の2以上をこの大学で過ごし、このたび定年を迎えることができました。これまでお世話になった皆さまに心より感謝申し上げますとともに、本学の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。



道勇 学 先生

(内科学講座(神経内科)・教授)

今、愛知医科大学に思うこと 感謝、そして祈念

平成19年2月1日に脳卒中センター教授(特任)として本院着任、翌20年5月1日、内科学講座(神経内科)教授に就任、以後今日に至るまで関係者の皆さまに支えていただき、誠にありがとうございました。

当初は、学生部次長、部長など学生の生活・教育に関わる任を担当し、充実した教員生活を送らせて

いただきました。中でも、毎年入試面接で受験生の為人を洞察することにやり甲斐を感じ、彼らが入学後どのように成長するかを見守ることが楽しみでした。

任期の後半は病院経営企画に関わる業務が主となり、平成27年から副病院長、令和3年からは病院長の任を預かり、大規模組織の管理経営という貴重な体験をさせていただきました。

医学・医療の現場が益々厳しくなる昨今、愛知医科大学においては、論理的な思考力と知識、そして確実な技術を実装したレジリエントな医師・医学者をこれからも輩出し続け、社会から望まれる大学として確固たる存在感を大いに示してくれること、心より祈念します。



坂本 真理子 先生

(地域・在宅看護学・教授)

看護の力に期待しています

愛知医科大学看護学部へ赴任したのは、看護学部が開設された平成12年の6月でした。その後約24年間、教員として多くの経験を積ませていただきました。看護学部が完成年度を迎え、その後大学院看護学研究科修士課程が立ち上がり、令和7年4月から開設される大学院看護学研究科博士後期課程ま

で、一連の過程を見届けることができましたことも感慨深く感じています。振り返りますと、教育や研究活動を通じて、地域住民の皆さんの持つ力や若者たちの可能性を実感することが多い年月でした。

平成31年度から令和6年度までの6年間にわたり看護学部長を拝命し、激動の日々でしたが、皆さまに支えられて役割を全うすることができました。

看護学部の皆さま、本院看護部の皆さま、看護学部の卒業生や看護学研究科の修了生の皆さまが、これからも活き活きと良い仕事をされ、看護の力を発揮されますよう、大いに期待しております。

最後に、愛知医科大学関係者の全ての皆さまの今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



縣 裕篤 さん

(小児科学講座・教授(特任))

平成8年に小児科に入局し、3名の教授の下で29年間奉職致しました。様々な事がありましたが、あっという間の感覚です。今後は一人の医師として、地域医療に貢献したいと存じます。



有友 由美子 さん

(看護部外来師長室・主任)

多くの方々に支えていただき、無事定年を迎えることができました。心より感謝致します。今後の愛知医科大学の益々の発展を祈念致します。



安藤 功臣 さん

(法人本部・職員相談調整監)

多くの方々に支えていただき、43年間無事に勤務することができましたことを心より感謝致します。今後も愛知医科大学と皆さまの益々の発展をお祈り申し上げます。



後藤 佳志 さん
(看護学部同窓会・活動支援監)

昭和57年4月にワクワクしながら入社。あっという間の43年間、その間いろいろありました。幸いにも同僚・後輩に恵まれ、何とか終局を迎えることができたことに感謝しています。皆さまと愛知医科大学の更なる発展を祈念致します。



末松 寛之 さん
(感染制御部・臨床検査技師)

大学病院の日常は刺激に満ちていました。様々な困難を乗り越えられたのは優秀なスタッフとチームワークのお陰です。ありがとうございました。本学の益々の発展を祈念しています。



戸田 美佐子 さん
(看護部患者相談室・看護師長)

愛知医科大学での出逢いや経験は私の大切な宝物です。看護師を目指した時から本日まで、支えてくださった方々と家族に感謝あるのみです。本学と皆さま方の益々のご発展をお祈り申し上げます。



長坂 泰利 さん
(総務部総務広報課・主任)

色々なことがありましたが、その都度皆さまに助けていただき、お陰さまで長く務めることができました。ありがとうございました。後もう暫くお世話になります。



丹羽 玲子 さん
(輸血部・臨床検査技師)

多くの方々に支えていただき、44年間勤務できたこと、深く感謝致します。振り返ると色々思い出されますが、あっという間でした。皆さまのご活躍と大学の益々のご発展をお祈り致します。



村居 巖 さん
(医療福祉相談部・精神保健福祉士)

昭和58年4月1日病院事務部医事課医療相談係(ケースワーカー)に入職し、令和2年3月末に定

年退職。以後精神保健福祉士として5年間相談援助業務に従事させていただきました。40数年間患者さん、ご家族さまを始め院内外の多くの皆さまから御指導をいただき、支えていただきましたお陰で業務を遂行することができました。御礼を申し上げ、退職のごあいさつとさせていただきます。誠にありがとうございました。



村松 有紀 さん
(看護部事務室・副部長)

多くの方に支えていただき、無事に定年を迎えることができたこと感謝しております。愛知医科大学での16年間は大変有意義な毎日でした。今後も愛知医科大学と皆さまの発展をお祈り申し上げます。



森下 裕司 さん
(形成外科・歯科技工士)

41年前、愛知医科大学病院に入職、人生の大半を過ごし定年の日を迎える。愛知医大の職員で良かった！と感じる日々です。皆さまへの感謝と愛知医大の益々の発展を祈念致します。

※ 教授を除き、五十音順・希望者のみ掲載

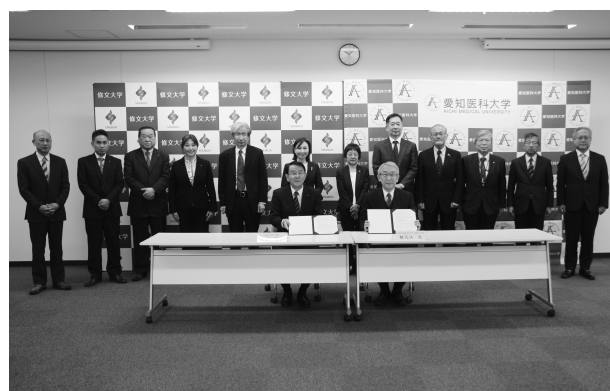
修文大学との連携・協力に関する基本協定締結

愛知医科大学と修文大学は、教育・研究活動の充実と学術並びに科学技術の振興に資することを目的とする連携・協力に関する基本協定を締結しました。

両大学では、かねてから学生の受け入れや共同研究など教育研究の連携を進めていましたが、このたびの協定締結により、相互の特徴を活かすことで質の高い人材を輩出するとともに、教育・研究活動等の成果を社会に還元することが期待されています。

また、令和7年2月26日（水）午前10時から、本学大学本館711特別講義室において、両大学の関係者出席の下、「愛知医科大学と修文大学との連携・協力に関する基本協定締結式」が行われました。

式では、関係者紹介の後、両大学の学長が協定書に署名し、記念撮影が行われました。続いて、両大



関係者での記念撮影
(前列左から丹羽学長，祖父江学長)

学を代表し、本学の祖父江元 学長，修文大学の丹羽利充学長から、このたびの連携・協力により、地域医療への貢献及び学術研究の推進とともに、両大学の更なる発展を祈念したあいさつがあり、式は終了しました。

「THE日本大学ランキング2025」教育リソース分野 全大学第9位・私立大学第2位にランクイン

令和7年4月3日（木）にTimes Higher Educationによる「THE日本大学ランキング2025」が発表され、教育リソース分野において、本学が全大学で第9位、私立大学で第2位にランクインしました。

THE日本大学ランキングとは、英国の教育専門誌Times Higher Educationとベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる教育リソース、教育充実度、教育成果及び国際性の4分野によって大学の教育力を測定し、今回は257大学がランキング対象となりました。

教育リソースとは、学生一人当たりの資金や教員比率などのデータから、どれだけ充実した教育が行われている可能性があるかを表したものです。

順位	大学名	設置区分
1	東京医科歯科大学	国立
2	浜松医科大学	国立
= 2	東京大学	国立
4	京都府立医科大学	公立
5	奈良県立医科大学	公立
= 5	東京医科大学	私立
7	東北大学	国立
8	京都大学	国立
9	愛知医科大学	私立
10	日本医科大学	私立

THE日本大学ランキング2025
分野別ランキング「教育リソース」TOP10

大学運営審議会～新メンバーでスタート～

学長及び副学長を中心に大学の重要事項及び将来構想等を審議する組織として、平成28年4月1日付けにて設置された「大学運営審議会」は、毎年度15回程度開催され、各種規則の改廃に係る審議のほか、副学長から学部・病院の動向や課題等について随時報告がなされ、両学部間での情報共有が図られています。

昨年度で任期満了に伴う副学長（診療担当及び特命担当）の改選があり、令和7年度は新メンバーで第1回大学運営審議会が4月21日（月）に開催されました。【写真】

今年度は、令和9年度大学評価受審に向けた報告書作成等の準備、財政基盤の確立、入試制度改革、新モデル・コア・カリキュラムへの対応、リハビリテーション改革など、様々な課題への迅速な対応を重視し、構成員が多忙の中ではありますが、開催時間を調整しながら積極的に開催していきます。



<構成員>

学 長	祖父江 元
副学長（医学教育担当）	笠井 謙次
副学長（看護学教育担当）	若杉 里実
副学長（診療担当）	天野 哲也
副学長（特命担当）	佐藤 元彦
副学長（特命担当）	伊藤 理
事務局長	羽根田雅巳

名古屋市教育委員会共催「市民大学公開講演会」開催

令和7年2月15日（土）午後1時30分から、イーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会との共催で市民大学公開講演会が開催されました。

「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマに2部構成で行われ、第1部の講演では、内科学講座（循環器内科）の鈴木靖司教授（特任）が、「疲れやすいのは年のせい？－心房細動治療の最前線－」と題し、心房細動の原因や症状、最新の治療とカテーテル・アブレーションなどについて講演されました。

続いて、第2部の講演では、内科学講座（循環器内科）の安藤博彦教授（特任）が、「心筋梗塞から命を守るために知っておきたいこと」と題し、心臓の働きと心臓疾患の種類や心筋梗塞の予防策などについて講演されました。

参加者からは「とても分かりやすく、かつ高度な内容で満足した。」「力強く説得力があり、とても良い講演であった。」などの感想があり、大変盛況な講演会となりました。



講演する鈴木教授（特任）



講演する安藤教授（特任）

災害医療研究センター 厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業を終えて

事業名：広域的長期浸水（湛水）・液状化被害による長期孤立が予測される海拔ゼロメートル地帯における災害時福祉医療連携ネットワークモデルの作成を目指した調査研究事業

災害医療研究センターが実施した本事業では、関連市町村、高齢者介護施設、医療機関等からなる検討委員会及び作業部会を設置し、能登半島地震での支援経験から、大規模災害時に長期広域孤立が予測されている海拔ゼロメートル地帯をモデル地域とし、災害時保健医療福祉情報連携ネットワークの構築を目指してきました。

また、本事業での知見を踏まえ、各高齢者介護施設がBCPや防災マニュアル行動計画に基づき収集した施設の人的・物的被害情報を集計できるアプリを開発し、愛知県及び海拔ゼロメートル地帯の市町村、高齢者介護施設、医療機関等による実証訓練の実施により、災害時の効果的支援に向けて検討を重ねて参りました。

この結果として、被害状況集計後に要避難者、要医療者を選定するとともに、施設として避難、籠城、業務継続かの方針を決定し、市町村、都道府県と情報共有し、市町村・都道府県が支援方針を確認し、



実証訓練の様子

医療搬送先、避難先、避難方法、物品支援等の支援を行うための行動計画として、「災害時保健医療福祉情報連携ネットワークシステム行動計画（D H-W ins ap）」をとりまとめました。

今後は、この行動計画を更に改善し、社会実装することで、多くの地域・施設に普及啓発を行い、社会に貢献して参ります。

学内研究ユニット創出支援事業 成果発表会開催

令和7年2月14日（金）午後1時から、大学本館7階会議室等において、学内研究ユニット創出支援事業成果発表会が開催され、各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション発表と各ユニット及び学内研究者によるポスター発表が行われました。

研究ユニット創出支援事業は、学内の研究活性化を目的として、分野横断的な「研究ユニット」を組織して、各ユニットで研究を遂行するもので、その研究成果発表の場として、学内研究ユニット創出支援事業成果発表会が開催されました。

今回は研究者による発表に加え、医学部2学年次生による基礎医学セミナーの学修成果発表（ポスター発表）が初めて行われました。研究者から学生まで幅広い参加者によって、更に発展した内容の発表会となりました。

発表会当日は、プレゼンテーション発表11課題とポスター発表25課題の研究成果発表が行われ、研究者111名及び学生等が参加しました。発表会を通じて多くの研究者の間で活発な意見交換及び研究内容に関する質疑応答がありました。学生の発表と併せ大学全体の研究交流会の場として活用され、非常に有意義なものとなりました。



研究ユニットによる発表



学生によるポスター発表

愛知医科大学SDへの取り組み

本学では「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和6年度ICT活用教育に係る講演会開催

令和7年2月28日（金）午後5時からマルチメディア教室において、総合学術情報センター（ICT支援部門）主催による、ICT活用教育に係る講演会が開催されました。今年度も現地及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催され、70名の参加がありました。

山梨大学教育統括機構大学教育・DX推進センターの坂田信裕特任教授を講師にお招きし、「生成AI導入の現場から見る教育活用の可能性と課題」

と題してご講演いただきました。講演では、近年驚くべき進化を遂げている生成AIの現状について、実演を交えてご紹介いただきました。

大学として教育や業務に活用する生成AI環境をどのように導入するのか、教育へ生成AIをどのように活用できるのかについて理解し、適切に活用できるような教育とサポート体制を整えることが期待されます。

令和7年度新規採用事務職員研修実施

令和7年4月1日（火）～4日（金）に新規採用事務職員2名を対象とした事務職員研修が実施されました。研修では、本学・本院・メディカルセンターの施設見学やコミュニケーションワークを通じて同期同士の仲を深めるとともに、業務遂行に必要な電話対応、文書事務及びOAスキルなどを学びました。また、内定期間中からグループで取り組んだ「愛知医科大学及び愛知医科大学病院の特徴」という課題について、配属部署の管理職に向けて発表が行われました。

研修受講後のアンケートでは、「電話研修ではそもそも電話が苦手で、とても緊張していました。実際に電話を使って練習できたのは良い経験になりました。」「施設見学を通じて、患者さんのために多くの職員が多様な業務に取り組む様子を知ることができ、一日でも早く役に立てるようになろうと思いました。」などの感想がありました。



本院施設見学にて

4月から6月にかけては、毎週金曜日に新規採用事務職員向けの事務組織研修を実施します。各部署の先輩職員を講師として、これから関わっていく事務組織について詳しく学んでいく予定です。

令和7年度新規採用職員ビジネスマナー研修実施

令和7年4月15日（火）及び16日（水）大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度新規採用職員を対象とした、看護職員・医療職員・事務職員合同のビジネスマナー研修が実施され、216名が参加しました。

研修は両日同内容で開催され、座学だけでなくペアワークを行うことで、より実践的な研修が実現できました。社会人としての基本動作及び言葉遣い・敬語など、ビジネスマナーの基本を習得する内容で、ロールプレイングによる実践的な練習や全体での意見共有が行われました。

受講者からは、「言葉遣い・所作を丁寧にすることでコミュニケーションをとる相手の印象が良くなることを改めて実感しました。」「電話対応や患者さんのご家族と関わる際、アイコンタクトを取るこ



ロールプレイングの様子

と、言葉遣いに気を付けることを活かしていこうと思います。」「まずは自分の身だしなみに気を付け、患者さんの前に立ったときに恥ずかしくないように行動したいと思います。」などの感想がありました。

令和6年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



令和6年度卒業証書・学位記授与式が、令和7年3月1日（土）午前10時から大学本館たちばなホール

告 示

学長 祖父江 元



本日は医学部・看護学部の課程を無事卒業され、ここに卒業式を迎えられた皆さん、保護者の皆さま、学長として心よりお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。

皆さんは、本学での重要な時期をコロナ禍の中で過ごされた世代です。本当に大変だったと思います。講義は多くがWebになり、実習もなかなかできなかったと思います。何よりも大学に出てきて友達と会話をするのができなかったと思います。やっと収束状態になり、卒業式も以前の形式に戻りました。

この卒業式を迎えられたのは、皆さんの努力もさることながら、多くの人の支えがあったからだと思います。ご家族の方々、先輩、友人、教員、そして何よりも実習などで協力していただいた患者さんやそのご家族の方々など、改めて感謝の意を表したいと思います。これからの皆さんは、社会人として、医療に携わるプロとして、新しい生活が始まります。改めてこの門出をお祝いしたいと思います。

さて、お祝いのあいさつとして医学部と看護学部を卒業する皆さんに期待したいことを述べます。医学部を卒業する皆さんには、General physician (GP)の視点についてお話ししたいと思います。これから

ルにおいて挙行されました。【写真】

初めに、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長及び若杉里実看護学部長から、医学部卒業生101名、看護学部卒業生99名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。続いて、祖父江学長から告辞が述べられ、高柳友子医学部後援会長、加藤宏泰看護学部父母会長及び福澤嘉孝医学部同窓会長から祝辞が述べられました。

この後、在学生を代表して看護学部3学年次生の山口雅さんから送辞が、卒業生を代表して医学部の富田明日香さんから答辞が述べられ、午前10時45分頃に式は終了しました。

2年間の初期研修を終えて、それぞれの志望の領域の専門医研修に入ると思います。専門医研修は大変重要ですが、同時に広く患者さんの病状を見るGPの視点もぜひ持って欲しいと思っています。このGPの視点の涵養は、昨今の医学教育の重要課題とされています。イギリス、アメリカ、カナダ、北欧などの諸国では、Specialist（専門医）とGPは卒業と同時にはっきりと分かれています。GPはいわゆるfamily medicineを担うDr.で、一定の地域を任されて、その地域の人々を一生にわたって診ていき、必要に応じて専門医に紹介することになっています。一方、日本では、ほとんどの人が研修医を経て専門医になります。従って欧米と違って一人ひとりのDr.がGPであると同時に、専門医の基盤を持っています。例えば患者さんを診たとき、どのように各診療科にトリアージすれば良いか、どのように専門医に繋がれば良いかという能力が必要とされます。

また、高齢化により一人の患者さんが複数の疾患を持つことが多くなりました。高齢化とともに疾患の構造が大きく変化しており、疾患との共存期間が大変長くなるというように、病態が変化しつつあります。パーキンソン病を例に挙げると、私が研修医の頃と比べて、有病率は恐らく10倍以上増加しており、発症から20年以上経過している患者さんが大変多くなりました。パーキンソン病の症状に加えて、

認知症、自律神経障害、呼吸不全・循環不全、心不全、腎不全など思いもよらない多彩な症状が出てきます。同様のことは、心不全、認知症、糖尿病、腎不全、リウマチなど多くの疾患に見られていて、しっかりとした治療にはGP的な力が大変必要になってきているのです。

更には、救急などの場面では、まさにGPとしての力が必要です。自分の専門を超えてフレキシブルに患者さんに対応できる医師としての基本能力が求められている一方で、現在の医学教育はどちらかというと専門医型教育で、GPとしての教育が少ないということが指摘されています。社会的にも個々のDr.のGP的能力の必要性が叫ばれており、現在これを克服する方法が検討され、試行錯誤の最中です。本院では、令和5年度からこの点を補うシステム改革を進めています。一つは全診療科の専攻医の救急配属であり、もう一つは特に内科専攻医のメディカルセンター配属で、いずれも3か月間行っています。また、救急では様々な診療科の患者さんが受診されることから、専門領域を越えた研修が可能であり、専門研修の内の一定期間、例えば3か月程度の研修を重ねることによって、救急の素養とともにGPとしての視点が備わるのではないかとされています。私自身も振り返ってみると、GP的能力の取得は初期研修、後期研修の時期が大変重要であったと思っています。本学でもそれが可能なシステム作りを進めたいと思っていますので、ぜひ皆さんには、今後の研修の中でGPの視点を持つことを心がけていただきたいと思います。

次に、看護学部卒業の皆さんには、まず看護師の職域が近年大幅に広がっていることを理解してもらいたいと思います。高度化手術、急性期医療、慢性期医療、地域医療、あるいは治験、行政、教育の領域まで、医療のニーズに合わせて大きく広がってきています。今回は、このうちNPについて詳しく紹介します。

NPは、Nurse Practitionerの略で、従来は医師しか行うことができなかった医療行為を一定の条件下で行う看護師のことです。手術部、麻酔科、外科領域や内科的領域でも力を発揮できます。2年間の修士課程が必要ですが、欧米などでは医療を進める

上で、なくてはならない職種になっています。

本学のNPについては、3年前から大きく改革が進んでおり、独立の部門としてキャリアパスを作ることができるようになり、給与待遇も大幅に向上しました。また、研修システムも今までとは異なる新しいものを作りました。また、NPコースの定員を増やすことによって活躍の場が広がるようになっていますし、奨学金制度を大きく拡張しています。

更に、本学では令和7年4月に看護学研究科博士後期課程が始まります。その中心は、NPの博士課程Doctor of Nursing Practice (DNP) です。DNP博士課程の創設は日本で4校目となり、本学にNPの修士課程と博士課程が揃いました。本学が日本におけるNPのメッカになることを期待しています。先日も、NPコースの説明会が開催され、全国から参加者があり、ぜひ本学で勉強したい、働きたいという人が多くみえました。我国におけるNPの役割がどうあるべきかについて考えられていますが、本学が我国のオピニオンをリードできる立場になりたいと思っています。卒業生の皆さんには、キャリアパスの一つの例として考えていただけると良いと思います。

いずれにせよ、看護師は患者さんに接する時間が長く、直接の対応も多く、医療を進める上で最も重要な役割を担っていると思っています。明治時代の医学の父、あるいはビタミンの父とも言われた高木兼寛は東京慈恵会医科大学の創設者ですが、同時に我国最初の看護学校を創ったヒトでもあり、「医師と看護師は車の両輪のごとし」という言葉を残しています。今では当たり前の話ですが、明治時代にこの言葉を残しているのは誠に素晴らしいと思います。ぜひ各人のキャリアパスを描いて活躍されることを期待しています。

最後に、これは皆さんへの期待です。皆さんの中から、ぜひ本学の次の世代を背負う人が出てきて欲しいと思っています。私は、本学は今後更に大きく飛躍していくことが必要だと思います。その基本となるのは、皆さんのような若い力だと思っています。皆さんが成長し、臨床家として、研究者として、あるいは実践家として、本学飛躍の担い手として愛知医科大学に戻ってきてほしいと思います。

送 辞

看護学部3学年次生 山口 雅



冬の厳しい寒さも少しずつ和らぎ、肌寒さは残りながらも穏やかな日差しに春の訪れを感じられる季節となりました。この良き日に晴れてご卒業を迎えられましたことを在校

校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今日ここに晴れの日を迎えられましたのも、先輩方をあたたかく支えてこられたご家族の深い愛情や、先生方の熱心なご指導、そして何より先輩方の高い志と日々の努力が実を結んだ結果であると思います。

皆さまは今、この愛知医科大学で過ごした日々をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。医師・看護師となるべく、勉学を始め、部活動や課外活動、実習などに励み、辛いことや困難に立ち向かいながらも一歩ずつ着実に歩みを進められてきたことと思います。皆さまが同じ道を志す仲間と出会い、ともに切磋琢磨しながら日々努力を重ねられてきた

この年月は、生涯にわたる大きな財産となることでしょう。

この先、新たなステージへの第一歩を踏み出されるなかで、夢と希望をもちながらも、時には大きな壁に遭遇し、挫けそうになることもあるかもしれません。しかし、本学で培われた知識、技術、倫理観、精神力、豊かな人間性、そしてここで出会った大切な仲間は、困難な道を切り開き、長い人生を歩いていく上の大きな支えとなり、医療の場での礎となることを確信しております。

私たちが在校生は、先輩方への感謝と尊敬の気持ちを忘れず、高い志を持ちながら医療従事者への道のりを力強く歩み続けてこられた先輩方の姿をお手本とさせていただき、同じスタートラインに立てるよう残りの学生生活も日々精進して参ります。

最後になりましたが、皆さまの今後の更なるご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日はご卒業誠にありがとうございます。

答 辞

医学部卒業生 富田 明日香



冬の厳しい寒さの中にも暖かい陽射しが差し込み、春の訪れを感じる季節となりました。本日は先生方、保護者の皆さま方にご臨席を賜り、このような素晴らしい卒業式を

挙行していただきましたことを卒業生一同御礼申し上げます。今日という佳き日に私たちは愛知医科大学を卒業致します。

振り返れば、咲き誇る桜の下、私たちは期待に胸を膨らませ、学び舎の門をくぐりました。専門的な授業内容や膨大な勉強量に圧倒され、数多くの試験を乗り越えようと必死になっていた時。臨床実習で患者さんと接する中で医療者としての在り方に悩んだ時。大きなプレッシャーと不安を感じつつ卒業試験や国家試験の勉強を続けていた日々。いつも側で支えてくれたのは、同じ目標に向かって切磋琢磨しあった仲間でした。そして、熱心に指導して下さった先生方、親身に寄り添って下さった先輩方、い

つも全力で応援してくれた後輩たち、私たちの不安を受けとめて励ましてくれた家族。皆さまのお陰で私たちは幾多の苦難を乗り越えることができました。

さて、私たちが医師・看護師としての第一歩を踏み出すに当たり、今までの努力が結実する喜びとともに、人命に携わる責任の重さを感じています。大学生活の中で育んだ医療人としての志を胸に、これから立ちはだかる困難も乗り越え、社会貢献に努めていく所存です。

最後になりますが、学長先生、御来賓の皆さま方、在校生の方々に厚く御礼申し上げますとともに、お世話になりました先生方、医学部後援会、看護学部父母会、大学職員の皆さま方、学生生活においてお世話になった多くの方々、そしてこれまで惜しみない支援をしてくださった家族に、卒業生一同、心より深く感謝申し上げます。

本学の更なる発展をお祈りするとともに、本学卒業生の名に恥じぬよう日々研鑽に励むことを誓い、答辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

石碑（具眼考究）寄贈

令和6年度医学部卒業生からの卒業記念品として、大学本館前の芝生に「石碑（具眼考究）」が贈呈され、令和7年3月1日（土）の卒業証書・学位記授与式終了後に除幕式が行われました。【写真】

当日は、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長、宮本淳医学部学生部長を始めとした学内役職者に加え、令和6年度卒業生からは代表者の戸堂智子さんを始め多数の卒業生が出席しました。

戸堂さんからは「6年間の学生生活を振り返ると、あっという間に過ぎ去っていきましたが、とても充実した日々でした。将来、医師として病気にのみ目を向けるのではなく、患者さんと向き合い、全人的に患者さんを診ることが大切であると学びました。後輩諸君も医の意思を胸に講義・実習に臨まれるこ



とを願い、学是である『具眼考究』が刻まれた石碑を贈呈することにしました。」と贈呈の言葉がありました。

その後、祖父江学長から御礼の言葉が述べられ、除幕式が終了しました。

ホールクロック 寄贈

令和6年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、「ホールクロック一点」が寄贈され、令和7年3月13日（木）に看護学部学生ホールにて除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、祖父江元 学長、若杉里実看護学部長、泉雅之教務学生部長を始めとする本学役職者、看護学部教員及び令和6年度卒業生が参加しました。

初めに、卒業生を代表して高畠美優さんから、「愛知医科大学の発展と看護学部の後輩たちが豊かな感性と思考力を持った看護を学び、看護専門職者として対象となる人々と共に健康を追求していけること、また有限な看護学生としての時間を実りあるものとして大切に1秒1秒過ごして欲しいという願いを込めて「ホールクロック」を贈呈致します。」と言



葉をいただき、続いて、祖父江学長、若杉看護学部長からお礼の言葉が述べられました。

卒業記念品として、令和6年度卒業生の温かい思いが込められた「ホールクロック」が設置され、愛知医科大学看護学部の新たな時を刻んでいくこととなりました。

令和7年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



令和7年度入学式が、令和7年4月6日（日）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

初めに、祖父江元 学長からの式辞があり、220名（医学部116名、看護学部104名）の新入学生を代表して看護学部の小川絢平さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。その後、来賓の三浦昌子愛知県看護協会長、加藤宏泰看護学部父母会長、福澤嘉孝医学部同窓会長及び藤澤恵児看護学部同窓会長から祝辞が述べられました。

最後に、在学学生を代表して医学部6学年次生の

柴田真友子さんから、「入学式を迎えられた皆さんは、今、希望に満ち溢れていることと思います。しかし、大学に入学することは決して到達点ではなく、むしろ出発点です。皆さんは、これから沢山のことを学び、様々な経験を積み重ねていくこととなります。良き医療人となることを目指し、新たな一步を踏み出して欲しいと思います。楽しいことだけでなく不安なこと、大変なこともあると思いますがそのときは決して一人で悩んだりせず、周りの仲間や先生方、先輩を頼ってください。きっと大きな助けになってくれます。」と歓迎の辞が述べられ、午前10時30分頃に式は終了しました。



宣誓を述べる小川さん



柴田さんからの歓迎の辞

式 辞

学長 祖父江 元



本日は、医学部、看護学部の入学試験を見事合格され、ここに入学式を迎えられた皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。コロナ禍を過ぎ、ご家族やご来賓の方々にご出席いただく本来の対面式の入学式に戻りました。また新たな気持ちで迎える入学式であることと思います。

さて、これから皆さんには、それぞれ4年間、6年間の大学生活が待っていますが、何をしようと

思っていますか？色々な将来への思いを描きながら今皆さんはここにいると思います。

この時期は毎年、各国家試験の結果が発表されます。新卒者の医師国家試験の合格率は98.0%で、私立医科大学31校の中では第10位、国公立も入れた82校では第20位でした。一昨年の合格率は100%で全国第1位でしたので、若干下降しましたが、学生の努力の結果が表れていると思います。また、新卒者の看護師国家試験及び保健師国家試験の合格率は100%で、非常に良い成績を収めています。

更に、Times Higher Educationが実施する日本

大学ランキング2025では、教育リソース分野（学生一人当たりの教員数、外部資金獲得額、論文数）において、本学は日本の全ての大学の中で第9位でした。愛知医科大学の教育レベルの高さの一端を示すものかと思います。

さて、医学・医療の最近の流れを少しお話ししたいと思います。第1には、疾病構造の変化です。特にこの30年は高齢化に伴う大きな変化が起こっています。心不全、糖尿病・メタボリック症候群、認知症、がん、パーキンソン病、肺線維症、リウマチ性疾患、腎不全など幅広い範囲の疾患で爆発的な患者数の増加が見られること、疾患と患者さんとの共存状態が異常に長くなっていること、その間の進行・再発がみられることなど、それぞれの疾患の症状の内容も高齢化に伴って変化してきています。私は神経内科の医師ですので、パーキンソン病という疾患についてお話しします。パーキンソン病は神経の疾患で動作がスローになり、震えが出て歩けなくなる、動けなくなるという疾患です。私が研修医の頃はむしろ稀な疾患で、典型例を見ることがなかなか難しいほどでした。ところが昨今は、神経内科の病棟や外来ではパーキンソン病の患者さんで溢れかえっており、パーキンソン病の有病率（患者さんの数）は30年前と比べると10倍程になっていると思います。また、以前は発症から20年以上経過する患者さんは珍しかったのですが、今では非常に増加しており、精神症状、認知症及び自律神経症状などを伴うことも多く、疾患との共存時間も伸び、急性悪化も起こり得るなど、状況は大きく様変わりしています。これはパーキンソン病に限らず、前述の他の疾患も同様の状態が出現しています。

また、治療法も大きく進展して、各疾患とも分子標的治療や原因治療などが行われるようになりました。以前は、単に症状を軽減することが治療の目的でしたが、昨今ではいかに日常生活を保ちながら長い疾患と共存していくのか、疾患の進行を抑制するのか、合併症の併発を抑えていくのか、再発や急性悪化をいかに防ぐのか、どう予防していくのかなど、目的や考え方が変化してきています。

この状態をどのように解決するのか？中核病院の専門医と地域のクリニックのジェネラルフィジシャンが共同で一人の患者さんをフォローして診ていくこと、いわゆる二人主治医制のシステムが重要では

ないか、各疾患に合わせた新たな地域医療の形が必要ではないかと思っています。本学においては、循環器内科では心不全、神経内科ではパーキンソン病の患者さんに対して地域医療のシステム化を進め、成果を挙げています。今後多くの疾患にも発展させることが必要と考えています。

第2には、疾患の予防です。これまでの医学は、疾患が起きてから初めて治療をスタートしてきました。疾患の発症そのものや再発の予兆を捉え、予防していくことが、今後の治療の可能性として少しずつ見えてきています。近年、認知症の一つであるアルツハイマー病に対して、レカネマブという薬が承認され、使用が始まりました。これはアルツハイマー病の原因となる $A\beta$ というタンパク質の脳内の蓄積を溶かして除去する薬で、アルツハイマー病の原因治療薬として認められています。 $A\beta$ タンパク質の蓄積はアルツハイマー病の発症の20年程前から始まっていますので、未発症の人に対して予防的にレカネマブを投与し、アルツハイマー病の発症そのものを予防できないかという治験が始まっています。

更に、がん、メタボリック症候群、炎症性腸疾患及びウイルス感染症などの様々な疾患において、発症前の予兆の分子マーカーが発見されています。発症の予兆を見つけ、発症及び再発を予防できないかという試みが進んでいます。まだ実用段階には至っていませんが、いずれ疾患の予防ができる時代が見えてくるのではないかと考えています。

高齢化に伴う疾患の構造変化と発症予防ということをお話しました。少し難しい話になったかもしれませんが、医学・医療は定まったものではなく、どんどん進化し変化していくものです。疾患の見方、考え方及び治療の仕方そのものを大きく変える必要が出てくることもあります。

これは当たり前と言えれば当たり前のことですが、皆さんが活躍する10年後20年後には地域医療のシステム化及び疾患の予防に対する考え方が大きく変わっているのではないかと思います。医学・医療の道を目指す人は一生チャレンジだと言われており、私もこの年になって日々そう感じているところです。

皆さんの若い力やフレキシブルな発想に期待して、本日の式辞とします。本日は誠にありがとうございます。

大学院学位記授与式

令和7年3月1日（土）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和6年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程修了者13名を代表して恩田真帆さん、看護学研究科修士課程修了者16名を代表して浅井美保さんの2名に対し、祖父江元学長から学位記が授与されました。

続いて、祖父江学長から告示が述べられ、式は終了しました。



大学院入学式

令和7年4月6日（日）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和7年度大学院入学式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程28名、看護学研究科修士課程14名、看護学研究科博士後期課程6名の計48名の新入学生を代表して、医学研究科の花岡黎さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。

続いて、祖父江元学長から告示が述べられ、式



は終了しました。

クリニカルアナトミーセンターの設置

令和7年4月1日付けで医学部にクリニカルアナトミーセンター（Clinical Anatomy Center）が新設されました。同センターは、臨床医学講座の医師が遺体を用いて手術技術を学ぶ手術手技研修（CST：Cadaver Surgical Training）や、医学部生、看護学部生及び看護師などのメディカルスタッフを対象とした臨床解剖セミナーの適正な運営を通じて、

CST及び臨床解剖セミナーの透明性と公明性を担保し、医師等の手術手技の向上に寄与することを目的としています。

CSTの実施により医療の安全性が向上するだけでなく、外科系に興味を持つ研修医の増加に繋がり、減少傾向にある外科系医師の数を増加に転じさせることが期待されます。

ヘルスケア共創センターの設置

ヘルスケア共創センターは、看護職の学びを深化する場、看護職の未来を創造する場、ヘルスケア推進のために人をつなげる場として、大学・病院・地域が有機的につながりあうプラットフォームとなり、医療・看護を取り巻く状況変化に柔軟に対応するヘルスケアを共創していくことを目的に、前身となる看護実践研究センターと看護連携型ユニフィケーション推進事業の発展的統合により令和7年4月に設置されました。

本センターは、①看護学部と大学病院とのシームレスな教育、看護学部と病院看護部との相互交流・

人材交流を促進するユニフィケーション部門、②看護職者へのキャリア支援教育及びリカレント教育を行う生涯学修支援部門、③地域住民のニーズに即した健康支援活動及び地域の関係機関との連携・協働を行う地域連携部門、④看護学研究の推進・活動成果の社会への発信を行っていく研究部門の4部門により構成されています。

50年先の未来に対応する医療・看護人材の育成及び持続的成長に資するとともに、本センターでの活動の成果をより社会に発信していくことを目指していきます。

教授就任インタビュー



内科学講座（神経内科）・教授

あつた なおき
熱田 直樹

— 教授就任に当たっての抱負を 聞かせてください。—

この度、道勇学先生の後任として内科学講座（神経内科）教授を拝命致しました。これから10年の神経内科診療、教育、研究への重い責任を感じております。

厚生労働省の令和5年（2023）患者調査によると、我が国の全入院患者のうち神経系の疾患が占める割合は10.5%、脳血管疾患の割合は9.3%で合わせると約2割になります。特に神経系の疾患が増えている、20年程前に比べて割合が2倍になっています。長生きの時代ですので、神経疾患の医療需要はまだ増える可能性が高いと思います。

また、様々な神経疾患に対する治療開発が進んでおり、アルツハイマーや筋萎縮性側索硬化症（ALS）など、これまで手が付けられなかった疾患に対しても病態抑止治療が開発され始めています。的確な早期診断と治療への責任と需要が益々増えると考えています。診療と教育でこの需要に応え、地域をリードしていきたいと思っています。研究面では、ALSなどを中心に治療開発の進歩に寄与していきます。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

大学卒業後、名古屋第二赤十字病院で若手神経内

科医として働く中で、多様な神経疾患への診療のやりがいや面白みを感じるとともに、難病に対する無力感、悔しさを感じることも多くありました。一方で、当時日本では多くの施設が共同で実施する臨床研究が乏しいという問題意識を持っていました。

平成14年に名古屋大学大学院医学系研究科細胞情報医学専攻へ入学した際に、当時の祖父江元教授からALSの多施設共同レジストリを立ち上げる機会をいただきました。全く何も無いところから計画、構想を立て、資金を獲得して、全国の施設を訪問して構築する取り組みを続けました。今では、2500例以上のALS患者登録があり、臨床情報、ゲノム情報、患者由来iPS細胞などの組み合わせから治療開発研究に寄与できるコンソーシアムに育っています。これを更に発展させていきたいと思っています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

未来を予測することは常に困難ですが、皆さんがこれから仕事をしていく40年の間に、医療・医学ができること、やらなければならないこと、問題・課題が激変することは確かです。医療経済についても厳しい変化があるかもしれません。それらに対応する唯一の方法は、自らの成長を継続して、患者さん方あるいは社会全体のニーズを把握し応えていくことです。そのためにも生涯にわたる学びが必要ですが、本質的には学ぶことは面白いものです。これから共に頑張っていきましょう。

オフショット



道勇学先生お疲れ様飲み会 神経内科の皆さん



産婦人科学講座・教授

おおす か さとこ
大須賀 智子

— 教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

この度、令和7年4月1日付けで、医学部産婦人科学講座の教授を拝命致しました大須賀でございます。本誌面をお借りして、謹んでごあいさつ申し上げます。

近年、産婦人科診療は高度化・多角化が進み、周産期や婦人科腫瘍領域においても、遺伝学的な知識に基づく診療が不可欠となっています。出生数が減少する一方で、体外受精による出生児が増加し、現在では10人に1人が体外受精で生まれる時代となり、すべての産婦人科医に生殖医療と遺伝診療に対する理解が求められるようになりました。

今回の就任に当たり、婦人科腫瘍、周産期、内視鏡手術、生殖医療、産婦人科遺伝診療など、各領域のサブスペシャリティ専門医が共に着任し、診療体制を更に強化致しました。産婦人科チームとして、女性の健康に貢献する質の高い診療・研究を遂行し、次世代の産婦人科医療を担う人材育成に取り組む教室づくりを目指して参ります。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

産婦人科専門医研修中は、主に周産期領域に関心を抱いていました。研修指導医の先生方から、大学院に進学し専門性を深めることの重要性を示していただき、進学を志しました。専門医取得後、夫の留学に伴い渡米した際には、ハーバード大学の研究施設にて、抗加齢遺伝子に関する基礎研究に携わる機会に恵まれ、基礎研究の醍醐味に触れることができました。帰国後、名古屋大学大学院に入学し、生殖グループに所属して早発卵巢不全や多嚢胞性卵巢症候群、生殖中枢に関する研究に取り組みました。女性内分泌の奥深さと、ヘルスケアにおける重要性に魅力を感じ、臨床／基礎研究を進めて参りました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

進学や研修施設のマッチング、専攻医研修などにおいて、必ずしも希望の結果にならないこともあると思います。私自身、大学進学や研究グループは第一希望ではなく、渡米時も留学よりサブスペシャリティ専門医の研修を優先したいと思っていました。そんな中でも、できることをしているうちに、新たな興味や仲間も増えました。最初に描いた道でなくても、様々なことに興味を持つことが、学生生活や医師としての人生をより豊かにすると思います。ぜひ、多くのことに挑戦してください。



日本生殖医学会での後進指導活動
Physician Scientist育成プログラム講習会
講師の先生方との記念撮影



基礎看護学・教授

しの だ
篠田 かおる

— 教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

令和7年4月1日付けで看護学部基礎看護学の教授を拝命致しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は現在の看護学部の前身である愛知医科大学看護専門学校を卒業し、愛知医科大学病院で看護師としての臨床経験の後、愛知医科大学看護専門学校の専任教員を経て愛知医科大学看護学部開学時に着任し、以後基礎看護学教員として教育に携わってきました。基礎看護学における教育では、低学年の学生への学習動機付けを図ることを目的として、臨床看護師による技術チェックを導入しました。これは、現在のユニフィケーション活動にも繋がっています。また、私は以前から医学部解剖学講座と連携して、医学部の解剖実習の兼任講師として医学生教育に関わるとともに、年2回の解剖セミナーの運営にも携わってきました。

このように、看護学部内に留まらず、医学部や病院との連携を密にして、今後の教育、研究、組織運営に尽力していきたいと思っております。そして、母校である愛知医科大学の更なる発展に微力ながら貢献して参りたいと思います。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

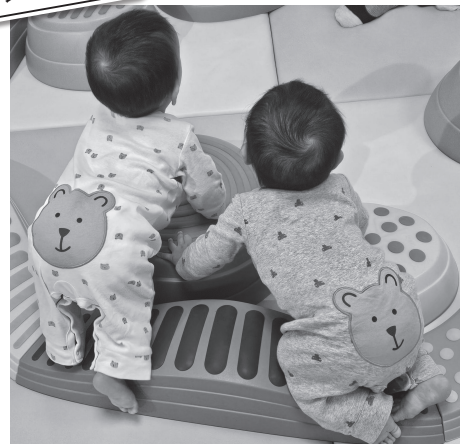
基礎看護学では基本的な看護技術を教育しています。その中で、私が学生時代に学んだことと現在では変化があることに気付きました。そこで、看護の根拠となることを追求したいという思いからいくつかの研究に取り組んできました。一例として、安全な看護技術の根拠となる解剖学的な研究（三角筋への筋肉内注射、静脈穿刺、大腿動脈穿刺等）は、解剖学講座と協働で開催するセミナーを通して継続的

に実施してきています。また、このセミナーでの学生の学びに焦点を当て、解剖セミナーにおける多職種連携の学習効果についてまとめました。チーム医療が推奨される中、セミナーにおいても学生は多職種連携の学びを得ていました。このように、学生の教育に繋がるような研究を今後も継続して積み重ねていきたいと考えています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

看護は人を対象としています。人を理解するためには、勉強はもちろんですがクラブ活動やアルバイト、ボランティアなどを通して多くの人と関わる経験を積み重ねてください。医療や看護以外の世界に目を向けることも良いと思います。人は一人では生きていけません。人と関わる中で、自分自身のことも分かり成長のきっかけも掴めます。ぜひ、人に興味を持つこと、人と関わること、人を大切にすることを心掛けて欲しいと思います。

オフショット



私の癒し



基礎看護学・教授

やまもと えみこ
山本 恵美子

— 教授就任に当たっての抱負を 聞かせてください。—

令和7年4月1日付けで、看護学部基礎看護学の教授を拝命致しました。どうかよろしくお願い致します。

基礎看護学領域とは、看護の基本的な知識・技術・態度を体系的に学ぶ分野であり、看護の専門領域の土台となる領域です。学生が「人をケアする」ことの意味を理解し、科学的思考力・技術・倫理観・人間性をバランスよく身に付けることを目指しています。

看護は、多様な人々を対象にケアを提供する専門職であり、一つの正解を求めるのではなく、相手の反応に丁寧に耳を傾け、対象者自身も気付いていない潜在的ニーズを含めてアセスメントする力が求められます。私は、そのような不確実な状況において、自らの経験を省察し、意味付けながら新たな看護実践を構築していける看護職者を育成したいと考えています。また、急速な社会変化に柔軟に対応できる力を育むために、卒前・卒後教育の連結性を見据えながら、根拠に基づく看護実践や、多職種連携教育等、これまでの教育経験や他の学問を応用して教育に活かし、その実現に向けて努力したいと考えています。

今後も、教育・研究・学部運営に尽力していきたいと考えております。皆さま、どうかご指導をお願い致します。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

医療安全が社会的な課題として注目を集めた1990年代後半、ヒューマンエラーが重大な医療事故に繋がったという報道を見て、「どのような声かけや確認が必要か」と強く感じたことが、私の医療安全への問題意識の出発点です。事故の背景には、個人の未熟さだけでなく、教育体制や組織文化など、構造的な課題が複雑に関与していると感じました。そこ

で私は、看護教育をより俯瞰的・包括的に見直す必要があると考え、医療安全に関する研究へと進みました。現在は、卒前・卒後のシームレスな教育、多職種連携を基盤としたチーム医療、そしてそれらを支える組織の安全文化の重要性に注目し、教育と実践の両面から安全性向上を目指した研究を続けています。更に、地域包括ケアシステムの進展に伴い、介護施設における「安全文化」の構築にも関心を広げています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

医療の現場では多くの患者さんとの出会いがあり、その一つひとつが大切な学びの機会となります。自分が経験したことのない人生について患者さんから伺うことがあり、私達は、その人の生き方や価値観に触れることで、心を動かされる瞬間も多くあります。嬉しい出来事や前向きな気持ちは私達の力となり、一方で、辛さや、やり遂げられなかった思いに触れる時には「生きる意味」について深く考えさせられる貴重な時間が生まれます。こうした学びをどれだけ深められるかは、自分がどんな医療人を目指すのかを問い続ける姿勢にかかっています。その姿勢が課題を見つけ出し、理想へと向かう道しるべとなります。皆さんが、よき医療人として力強く歩んでいかれることを、心から応援しています。

オフショット



北アルプス蝶ヶ岳
また挑戦しようと思う

定年退職教授最終講義

令和7年3月で定年を迎えられた4名の教授の最終講義が大学本館たちばなホールにおいて行われました。

長年にわたり、本学の発展に多大なる貢献をしていただき、また、本学の医学及び看護学教育に対しご尽力くださいました先生方の最終講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介致します。

歯科口腔外科学講座

風岡 宜 暁 教授 1月30日（木）

【歯科口腔外科医としての履歴書

一次世代への展望―】

風岡教授は、平成3年4月に本院歯科・口腔外科に助手として入局され、平成23年4月に同科教授にご着任以来、医学部及び看護学部の学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って診療・教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、口腔外科疾患全般に加え、腫瘍外科、形成外科、眼科など隣接科と共同で治療・研究を行った様々な症例、術後・外傷後の顎口腔機能再建を目指し、デジタルインプラントを応用した咀嚼及び構音などの高度な顎口腔機能の回復にご尽力され、患者さんのQOLを向上させる心身ケアに努められたことをお話していただきました。

講義の中盤には、口腔腫瘍の研究を行うなかで「切



らない手術」を目指し、放射線科と共同で選択的道注化学・放射線療法に従事され、治療成績の向上に貢献されたこと、CTL療法の研究・治療について、詳しく説明していただきました。

また、講義の後半には、NGO（Operations Unies）活動としてカンボジア及びネパールを訪れ、現地の口唇口蓋裂患者等の手術・研究にご尽力された経験、今後も後進の育成や選択的道注化学・放射線療法の発展に精力的に携わっていきたい旨を述べられ、講義を締めくくられました。

内科学講座（消化管内科）

春日 井 邦 夫 教授 2月14日（金）

【支えられて～愛知医大とともに歩んだ28年】

春日井教授は、平成9年1月に本学にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってこられました。

一方、平成23年4月からは教務部次長、卒後臨床研修センター長、愛知医科大学病院副院長を歴任され、平成30年4月から現在まで副学長を務められました。また、新病院建設委員会では、外来診察室関



連の設計・運用の責任者としてご尽力されました。

最終講義では、名古屋市立大学時代に取り組まれた胃液中の増殖因子やPD-ECGFの研究、ミシガン

大学での留学経験、長年携わられてきた消化管粘膜障害のメカニズム、PPI抵抗性NERD患者の病態解析、短鎖脂肪酸レセプター（GPR43）を介した腸炎制御メカニズム及びAIを用いた内視鏡診断など、様々な研究について詳しくご説明していただきました。

また、内視鏡センター部長在任中には、年間5,000件ほどであった内視鏡件数を10,000件まで増加させ、内視鏡医療の発展及び充実に貢献されました。平成26年から現在に至るまでThe Best Doctors in Japan

内科学講座（神経内科）

道 勇 学 教授 2月19日（水）

【道勇 学の最終講義～四方山話～】

道勇教授は、平成19年2月に本学にご着任以来、大変な熱意を持って研究指導・教育に当たってられました。脳卒中センター教授（特任）にご着任後は、脳卒中診療体制の立て直しにご尽力され、令和2年にはパーキンソン病総合治療センターを整備し、患者数は県内トップまで拡大されました。また、平成27年からは愛知医科大学病院副院長、令和3年からは病院長を務められ、大学病院の発展に貢献されました。

最終講義では、運動ニューロン病（球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症(ALS)）の研究に邁進され、神経細胞変性機序解明に関する数々の成果を輩出し、遺伝性変性疾患分野におけるトランスレーショナルリサーチの基盤を確立されたことを詳しくご説明していただきました。

講義の後半には、愛知県難病診療ネットワークを

に6年連続で選出されており、学内では6学年次生が選ぶベストティーチャー賞にも3年連続で選出され、「名誉ベストティーチャー」の称号を受賞されたことなど、学生から高く評価されたことを大変嬉しく感じておられました。

最後には、28年間支えてくださった全ての皆さまに深く感謝するとともに、次の世代へとバトンを託したいと述べられ、講義を締めくくられました。



推進し、地域の医療機関との連携による体制整備にご尽力されたこと、一方で、平成24年度から28年度の4年間学生部長を務められ、学生間の勉学協調性を重視した内的・外的環境整備や大学における系統的・縦断的医学教育の重要性についても言及されました。

講義の最後には、長い間、支えてくださった全ての皆さまに深く感謝の言葉を述べられ、愛知医科大学・病院の発展を祈念され講義を締めくくられました。

地域・在宅看護学

坂 本 真 理 子 教授 2月18日（火）

【Health for Allに向けた人々と看護の挑戦】

坂本教授は平成12年6月に看護学部の講師として着任、平成30年4月～令和5年3月に看護学部長、看護学研究科長、副学長として大学運営・教育研究・社会活動の各分野で活躍されました。最終講義では、本学に着任されるまでの保健師経験、青年海外協力隊などの活動実践や、タイ王国マヒドン大学での学



修を通して、協働と多文化の世界に飛び込む姿勢を学んだことが語られました。また、本学着任後、住民主体の活動及び多文化背景を持つ親子支援に関する研究・実践を行われ、看護教育の中に住民や実践家を積極的に招聘する参加型の教育を導入したことが紹介されました。

看護学部長としては、コロナ禍における学修環境整備、緊急食糧支援、ワクチン接種支援、看護学教

育評価及び大学院博士後期課程の設置準備に尽力されたことが語られました。

講義の終わりには、社会に向けて看護を発信すること、看護の強みを常に意識しておくこと、自分が取り組みたいアイデアを日頃から考えておくことの大切さを述べられ、感謝の言葉で締めくくられました。

篤志献体者に文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体いただいた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

内田 和子 殿	太田 勝久 殿	太田 民子 殿	太田 直樹 殿	岡田 松子 殿
梶山 弘江 殿	加藤しづ子 殿	河合 正幸 殿	木下ミサエ 殿	小島 勝子 殿
近藤恵美子 殿	榊原 洋治 殿	阪本 和代 殿	佐藤 育子 殿	澤田 鈴男 殿
柴田 準一 殿	清水 正枝 殿	鈴木スゞヨ 殿	高垣 敏子 殿	田中啓四郎 殿
中村万千子 殿	野々山和子 殿	深見みち子 殿	村井 吉徳 殿	森 征臣 殿
森 淑子 殿	安田 保一 殿	山下 常雄 殿	吉田 太一 殿	(以上 五十音順)

令和6年度実験動物慰霊祭挙行

令和6年度医学部実験動物慰霊祭が、令和7年3月7日（金）午後3時から実験動物供養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し、参加者全員で黙祷が捧げられました。続いて、笠井謙次医学部長から、瞑目した諸動物に対し、その尊い献身に感謝するとともに慰霊の辞として、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意が表され、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、祖父江元 学長、笠井医学部長、佐藤元彦総合医学研究機構長、松下夏樹動物実験部門長に



哀悼の意を表する笠井医学部長

続いて、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員や学生一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

新入生ガイダンス実施

令和7年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部・看護学部ともに4月6日（日）から11日（金）までにかけて実施されました。

◆ 医学部ガイダンス概要

4月6日（日）
医学部長メッセージ
事務連絡等

4月7日（月）
学生生活について
学生相談室の紹介
医学部のカリキュラムについて
・6年間のカリキュラムについて ・1学年次のカリキュラムについて ・履修上の注意及び試験に関する注意 ・単位認定・進級留年及び成績評価（GPA制度）
授業，試験等について
基礎科学ガイダンス
実習衣採寸・注文

4月8日（火）・9日（水）
新入生研修

4月10日（木）
情報基盤部門について
同窓会について
ICTに関するガイダンス
課外活動紹介

4月11日（金）
防災関係ガイダンス
施設紹介
医学部学生総合補償制度のご案内
ハラスメント防止講演会，防犯講習会，サイバーセキュリティ講演会

◆ 看護学部ガイダンス概要

4月6日（日）
看護学部長メッセージ
事務連絡等

4月7日（月）
教務関係オリエンテーションⅠ～Ⅳ
総合学術情報センター（情報基盤部門）利用講習会
学務情報システム説明・Web掲示板説明

4月8日（火）
健康診断・実習衣採寸
学生相談室紹介
同窓会紹介
総合補償制度Willに係る説明
国際交流会紹介
事務手続き案内
書類提出（奨学金等）
ロッカー案内

4月9日（水）
学校生活関係オリエンテーション
メールシステム利用説明
防災関係ガイダンス
施設紹介（運動療育センター，愛知医大サービス，図書館）
講義関係案内
教科書販売

4月10日（木）
健康管理ガイダンス
新入生研修
課外活動紹介

4月11日（金）
講義関係案内（ICT関連）
ハラスメント防止講演会，防犯講習会，サイバーセキュリティ講演会

令和7年度医学部新入生研修実施

令和7年4月8日(火)及び9日(水)シミュレーションセンターにおいて、令和7年度医学部入学生を対象とした新入生研修が実施されました。

1日目、まずは早稲田勝久医学教育センター長から本学カリキュラムの紹介、医学教育センターの紹介がありました。次に、自己紹介を兼ねたグループ作りが行われました。その後、基礎科学・基礎医学の先生方にご協力いただき、教員と自由に話すことができるセッションが設けられました。勉強の仕方や、どのように大学生活を過ごして欲しいかなど、学生と教員が直接話をするのができ大盛況でした。

午後からは外国語の平田亜紀准教授による自己紹介を通したコミュニケーション演習が行われた後、「あなたはなぜ医師を目指すのか」についてグループワークが実施され、学生は作業を通して徐々に打ち解け合い、活発に議論する姿がみられました。

2日目は先輩医師からのメッセージとして、内科学講座(循環器内科)の大橋寛史助教から、自身の学生生活を振り返りながら1学年次生に対する激励と温かいメッセージをいただきました。次に、解剖学講座の内藤宗和教授及び生理学講座の増渕悟教授から、「基礎医学の学び方」と題し、先生方のキャリア紹介及び基礎医学の面白さなどを講演していただきました。今年度からの新企画として、上級生を案内役としたオリエンテーリングを実施し、グループに分かれ学内に設置されたクイズや先輩とのコミュニケーションを通して、大学のことを学んでもらいました。



研修を受講する新入生



教員とのグループディスカッションの様子

午後からは本研修の締めくくりとして、KJ法を用いて「どのような6年間にしたいのか」を各グループで議論し、漢字一文字で表してもらいました。学生からは「挑・叶・進・花・縁・全・志・結・実・貫・究・熱」という一文字や、創作漢字も発表され、この想いを忘れずに6年間を過ごされることを期待したいと思います。

本研修終了後のアンケートでは、「同級生や上級生と交流する機会が得られ良かった。」、「大学について知ることができた。」、「医学生としての自覚を持つ機会になった。」など好印象なものが多く、プログラムにご協力いただいた教職員の皆さまに感謝致します。

令和7年度看護学部新入生研修実施

令和7年4月10日（木）午前10時40分からC棟C201講義室において、「社会に求められる看護専門職者に向けて、はじめの1歩を踏み出そう」をテーマに、令和7年度看護学部新入生研修が実施されました。本研修は、新入生が上級生との交流を通して、専門職者としての振る舞い及びマナーを知り、大学で主体的に学ぶことへの動機付けができるようになることを目的としています。

午前の部では、株式会社マイナビから講師をお招きし、「大学生として身につける接遇・マナー」についての講演が行われ、大学生としてだけでなく、看護学生として身に付けておくべき接遇・マナーを学びました。

午後の部では、少人数グループで学内施設を見学する「キャンパスツアーオリエンタリング」が行われ、学内各所に上級生と「ミニゲーム」をする交流ポイントや、本学に関する「愛知医科大学クイズ」を回答するチェックポイントが設けられました。新入生は初めは緊張していましたが、時間が経つにつれ笑い声も聞かれ、親睦を深めることができているようでした。



キャンパスツアーオリエンタリングの様子

また、「先輩との交流会」と題して、上級生と新入生の座談会が行われました。新入生からは、大学生活を始めとする多くの質問が寄せられ、上級生が体験談を交えて回答する場面もありました。新入生は、大学生活に関する不安が解消でき、充実した時間が過ごせました。

最後に、本研修を振り返り、新入生研修を通じて学んだこと、感じたことを個人レポートとしてまとめました。本研修は、新入生がこれからの学生生活を送る上で、非常に有意義な一日になったことと思います。

ハラスメント防止講演会・防犯講習会及びサイバーセキュリティ講演会開催

令和7年4月11日（金）の新入生ガイダンスにおいて、新入生が安心・安全に学生生活を送ることを目的とし、「ハラスメント防止講演会」、「防犯講習会」及び「サイバーセキュリティ講演会」が開催され、医学部及び看護学部の新入生220名が参加しました。

ハラスメント防止講演会では、本学保健管理センター長の鈴木孝太教授から、大学におけるハラスメントの基本的な定義、ハラスメントの事例及びトラブルを防ぐためにできることなど、具体例を交えながらハラスメントの対応方法について説明がありました。

防犯講習会では、愛知警察署生活安全課及び警備課から講師をお迎えし、防犯に関する講話、薬物に関する講話、宗教団体に関する注意喚起をテーマ毎にご講演いただき、若年層にも増大している大麻を中心とした薬物や、気づかないうちに巻き込まれがちな犯罪について、注意喚起がありました。

サイバーセキュリティ講演会では、愛知警察署本



サイバーセキュリティ講演会の様子

部警備部警備総務課サイバー攻撃対策隊から講師をお迎えし、情報セキュリティ上の脅威、サイバー攻撃・犯罪の手口及びサイバー攻撃・犯罪の対策について説明がありました。

講演後に実施したアンケート調査では、多くの学生から「今後の学生生活で役立つ。」などの感想がありました。

交通安全講習会開催

令和7年4月21日（月）午後6時から医学部生及び看護学部生を対象に、「交通安全講習会」が開催され、両学部合わせて173名の参加がありました。【写真】

講師にお招きした愛知警察署交通課交通総務係の伊藤様から、「愛知県の交通情勢は非常に悪く、交通事故で亡くなる方は沢山います。皆さんには他の模範となる運転を行うことを心掛けてください。」とお話しがありました。

また、令和6年11月に道路交通法が改正されたことに伴う自転車運転のルール説明があり、近年若年者の利用が増加している「電動モペット」について、現物をお持ちいただき、運転ルールなどをご説明いただきました。



最後に、「防衛運転（かもしれない運転）」の重要性を訴えるDVDの視聴が行われました。講習会終了後には、交通安全に対する確認Webテストが実施されました。

今後も学生一人ひとりが安全運転への意識を高めることができるよう、啓発活動を続けて参ります。

看護学部ミニオープンキャンパス（体験入学）開催

令和6年12月26日（木）に第1回、令和7年3月21日（金）に第2回「令和6年度看護学部ミニオープンキャンパス（体験入学）」が開催されました。

本企画は高校生が看護学部における講義及び演習を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

第1回には23名の高校生が参加し、精神看護学の心光世津子教授による体験授業「こころの声に耳を傾けよう！誰かのこころに寄り添うために」及び体験演習「こころのセルフメンテナンス法を学んで日常生活に活かそう」が行われました。

第2回には26名の高校生が参加し、老年看護学の横山剛志講師による体験授業「どうして高齢者は転ぶのか？－高齢者の加齢変化について学ぶ－」及び体験演習「高齢者疑似体験グッズを使って、高齢者



演習を行う高校生たち

の目線で看護を考えよう！」が行われました。

また、学食体験及び施設見学も行われ、参加した高校生からは、「貴重な体験ができ、看護職を目指すイメージを明確に持つことができました。」などの感想が寄せられ、2日間を通して参加した高校生にとっては、看護学の一端を学ぶ有意義な体験となりました。

看護学部模擬面接実施

令和7年2月4日（火）、6日（木）、7日（金）の3日間にわたり、就職対策として模擬面接が実施され、看護学部3学年次生65名が参加しました。

看護学部の就職支援は、入学時から段階的に行っており、マナー講座、就職支援講座、履歴書の書き方講座を経て、就職試験を目前とした3学年次後学期に模擬面接が行われています。

当日は、株式会社マイナビのキャリアサポート担当職員を面接官にお招きし、本番さながらの個人面接が行われました。面接終了後には、面接官からのフィードバックがあり、個々の学生に対して個別指導が行われました。

実施後に行ったアンケートでは、「緊張感のある中で、質問にどのように返すのか、実際に体験できたことは貴重な経験になった。また、フィードバ



模擬面接に挑む学生

クをいただいて、より良くする機会となり良かった。」「自分が言語化できていなかった部分を的確に質問してくださるため、自己理解や本番に向けてとても良い機会となった。」などの感想がありました。これから就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策を講じるための面接練習となりました。

看護学部同窓会「ミニレクチャー」開催

令和7年3月15日（土）午後1時30分から看護学部棟N201講義室において、本院看護部HCU病棟主任・フライトナースの伊礼リカルド看護師【写真】をお招きし、「災害看護の実際～フライトナースとDMATを経験して～」をテーマとするミニレクチャーが開催されました。現地及びオンライン配信とのハイブリッド形式で開催され、学内外から81名の参加がありました。

伊礼主任からは、DMAT及びフライトナースとしての経験を基に、災害現場における看護の実際の状況や、ドクターヘリを用いた搬送活動について具体的な事例を交えてお話いただきました。

災害はいつ発生するか分からず、医療従事者としての備えが求められます。質疑応答では多くの質問



が寄せられ、災害時の看護の役割及びDMATの活動について深く学ぶことができる、実践的な学びの機会となりました。

今後も看護学部同窓会では、実践的な学びの場を提供するために、様々なテーマでミニレクチャーを開催して参ります。

避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修への参画

避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修が、令和7年3月1日（土）・2日（日）に藤田医科大学において、3月22日（土）・23日（日）に石川県の穴水町B & G 海洋センターにおいて開催されました。

この研修は、内閣府（防災）令和6年度「避難生活支援・防災人材育成エコシステムの構築事業」の一貫として、被災者支援の担い手の裾野を広げ、各自治体でのボランティア人材育成プログラム構築の参考になることを目的としています。研修プログラムは、災害支援の専門家及び実践家によって令和3年度から作成され、改定を重ねながら、避難生活支援に係る災害ボランティア人材育成と発掘方法、スキルアップ研修の実施のあり方及びボランティア人材の円滑なマッチングを図る官民連携体制の構築が目指されています。

今回の研修では、レスキューストックヤード（RSY）及び全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）の栗田暢之代表理事、RSYの浦野愛常務理事（JVOAD避難生活改善に関する専門委員会）らによる全体の講義及びワークショップのマネジメントが行われました。3月1日・2日の研修には、公衆衛生看護学の二村純子講師が、藤田医科大学医学部健康科学の若月徹准教授（防災教育センター副センター長）とともにアシスタント講師を務め、臨床実践看護学の黒澤昌洋准教授、橋本茜講師が参加しました。3月22日・23日の研修には、地域・在宅看護学の佐々木裕子准教授が参加しました。

各2日間の研修では、基礎講座で学んだ内容をワークショップで実践し、振り返りを行って次のステップへ進みました。基礎講座では、「避難生活支援リーダー／サポーター」の役割・心構え、被災者及び避難所の全体像の理解、対人コミュニケーション及び連携協働などを学びました。ワークショップでは、①避難生活における改善が必要な事例や場面設定を行い、②サポートメンバーやファシリテ-



研修の様子

ーターが事例や場面の被災者役を演じ、③参加者がグループで具体的なコミュニケーションのはかり方を導き出すこと、必要な物資を用いて避難生活環境を改善すること、連携・協働相手を検討しその具体的な役割分担や課題を導き出すことに取り組むものでした。この内容も順序性も、とてもよく練り上げられており、学びを深めながら参加することができました。詳細なプログラム内容は内閣府防災情報のページURL（<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/hinanseikatsusien.html>）からご参照ください。

本学参加者を代表して佐々木准教授から、「私達は本研修に参加し、研修内容や参加者・講師らのコメントから多くを学ばせていただきました。中でも住民の方が『被災者に真に寄り添うとはどのように関わることなのか。避難所での様々な困りごとを誰と一緒に解決していくとよいのか。』と熱心にディスカッションし、具体的な行動を検討される積極的な姿勢や、豊かなアイデアや機転の良さ、講師を刺激する多くの質問からも深く学ばせていただきました。また、令和6年能登半島地震の被災地である穴水町において、研修に参加するという貴重な経験をさせていただきましたこと、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。この研修が意図する災害支援・減災活動が全国に広がることを願い、今回の経験を本学部や身近な場で活かす活動に取り組んでいきたいと思いました。」との感想がありました。

国際交流



ポーランド共和国ポズナン医科大学教員来学 ～更なる相互交流の発展を目指して～

本学では、令和2年度からポーランドのポズナン医科大学（Poznan University of Medical Sciences, PUMS）との学術国際交流が行われています。相互に医学部学生等の派遣・受け入れを行っており、本学の学生は相手校にて4週間の臨床実習に参加しています。

今般、ポズナン医科大学から国際交流担当責任者、病態生理学講座のDominika Kanikowska教授が来学され、今後の親交を深め相互理解のため、本学の教員との交流が行われました。

令和7年3月25日（火）午後2時30分から大学本館役員会議室1において、祖父江元 理事長、笠井謙次医学部長への表敬訪問及び国際交流関係教員との昼食懇談会が行われました。短い時間ではありましたが、教育・研究以外の話題でも積極的にコミュニケーションを図ることができ、今後の相互の親睦と発展を確信できる有益な時間を過ごすことができました。

また、Kanikowska教授の希望により、新たなリハビリテーション医療施設《プロリハ》リハビリテーションと、睡眠医療センターの施設見学が行われ、



表敬訪問時の記念撮影

本学への理解をより深めるだけでなく、両大学の医療技術等の意見交換を行う良い機会となりました。

施設見学後は、Kanikowska教授から本学の教職員・学生に向けて、ポズナン医科大学紹介の講演が行われました。本講演により同校の教育システム等を知ることができ、海外留学に興味がある学生にとっては、大変意義深い時間となりました。

今後は更に国際交流を充実させ、本学の学生が多様な異文化に触れる機会を設ける取り組みを積極的に行っていく予定です。

国際交流



タイ王国マハサラカム大学短期留学生来学

令和7年2月24日（月・祝）から6日間の日程で、タイ王国マハサラカム大学（Mahasarakham University: MSU）から、看護学部生3名、大学院生3名、教員6名の計12名が来学されました。MSUとは、平成30年から相互交流を実施しており、新型コロナウイルス感染症拡大による一時中止を経て、今回が4回目の受け入れとなりました。

今回の受け入れでは、学内ツアー及び病院見学に加え、二つの新たなプログラムが実施されました。一つ目は、学外施設の見学とそれに合わせた講義の実施です。精神看護学及び老年看護学の教員が、日本における各領域の医療・看護の現状と課題について事前にレクチャーを行うことで、学外施設見学の理解を深めることができました。

二つ目は、大学院生の合同研究フォーラムの開催です。MSUの大学院生3名と本学の大学院生2名による研究発表が英語で行われました。教員も含め、看護専門職者として大学を超えてディスカッションできたことは、国際学会での発表にも繋がる有意義な機会となりました。

また、2月25日（火）午前11時30分から大学本館役員会議室1において祖父江元 学長への表敬訪問が行われ、祖父江学長から「更なる研究交流に期待しています。」とのあいさつがありました。



学長表敬訪問での記念撮影



ウェルカムパーティーでの記念撮影

次回は、本年8月に本学学生がマハサラカム大学を訪問する予定で、更なる交流の発展が期待されます。

学術国際交流協定大学への医学部学生留学体験記

本学では、学術国際交流協定大学と学生の交流活動を積極的に行っています。そのプログラムの一環として、協定大学の2学年次カリキュラム受講（PBL）コース及び臨床実習選択（Elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

令和6年度は、公益財団法人医学教育振興財団主催プログラムを含む合計22名の学生が同コースへ留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記の一部をご紹介します。

2学年次カリキュラム受講（PBL）コース

大学名	期 間	人 数
南イリノイ大学（SIU）	令和7年3月8日（土）～令和7年3月31日（月）	7

臨床実習選択（Elective）コース

大学名	期 間	人 数
コンケン大学（KKU）	令和7年3月1日（土）～令和7年3月30日（日）	10
タマサート大学（CICM）	令和7年2月22日（土）～令和7年3月23日（日）	2
ルール大学（RUB）	令和7年2月21日（金）～令和7年3月24日（月）	1
ボズナン医科大学（PUMS）	令和7年2月21日（金）～令和7年3月24日（月）	1
グラスゴー大学（UofG）	令和7年2月28日（金）～令和7年3月30日（日）	1

*グラスゴー大学については、公益財団法人医学教育振興財団主催プログラムとなる。

南イリノイ大学（SIU）2学年次カリキュラム受講（PBL）コース

医学部5学年次生 森 泰地

私は3月にアメリカのイリノイ州にある南イリノイ大学（SIU）に留学させていただきました。現地では講義への参加が学習の中心で、授業内における学生の活発な発言や、症例を用いた問題解決型学習（PBL）が印象的でした。高い向上心がある仲間が大勢出会えたことは良い経験になりました。今まさに努力している人がいるんだという実感が、例えその瞬間周りに同じことに向けて努力する仲間がいなかったとしても、私を突き動かしてくれます。現に、帰国してからの私の振る舞いは帰国前とは変わったと感じます。これからも愛知医科大学からSIUに訪



森さん（中央）

れた学生が、良き学びを得て素晴らしい経験と成長をすることを願っています。

コンケン大学（KKU） 臨床実習選択コース

医学部6学年次生 橋本 英子

私はタイのコンケン大学で、整形外科と耳鼻咽喉科を見学しました。特に印象に残っているのは、整形外科の股関節学会に参加したことです。タイの学会では、ビンゴ大会が行われるなど日本との文化の違いも感じられ、貴重な経験になりました。耳鼻咽喉科では、実際にアレルギー検査（スクラッチテスト）を体験し、日本ではあまり見られないゴキブリアレルギーの検査にも触れることができました。放課後にはタイの学生とカフェやカラオケに行ったり、バドミントンをしたりと、交流も深まりました。異国の地でこのように楽しく過ごせたのは、温かく迎え入れてくれたタイの友人と先生のお陰です。心か



橋本さん（左列手前から4番目）

ら感謝しています。

タマサート大学チュラポーン国際医学部（CICM） 臨床実習選択コース

医学部6学年次生 田近 奈津穂

私はタイのタマサート大学での短期留学の機会をいただき、1か月間タマサート大学の循環器内科で実習をさせていただきました。循環器内科の実習では外来見学、カテーテル治療、講義に参加しました。1か月間の実習を経て一番感じたことは、他国の方との交流の重要性です。タマサート大学の医学部では、2年生で研究してポスターを作り発表するワークショップをし、5年生では英語で講義をしているなどレベルの違いを感じてとても刺激を受けました。病院では様々な国の医師との交流もあり、それにより医療が発達していると感じたので、他国との交流は医療発展のためにも重要であると学びました。



田近さん（左）

この学びや刺激を忘れずに努力をし、いつかまた医療における国際交流をできたら良いと考えています。

ルール大学（RUB） 臨床実習選択コース

医学部6学年次生 片桐 麻衣

私は、ドイツのルール大学の大学病院であるMarien Hospital Herneの産婦人科で1か月間実習をさせていただきました。こちらの産婦人科では、特に骨盤脱の治療に力を入れている婦人科領域と、妊娠から出産、産後までしっかりとサポートする産

科領域がどちらも充実していました。日本の医学教育に比べると、ドイツでは実習生のうちから採血・ルート確保などの手技や、外来での術前説明を積極的に行なっていることが印象的で、私も現地の学生とともに手技をやらせていただく機会をいただきま

した。

お産件数も多かったため、私も初めてお産の見学をさせていただくことができ、お母さんやその家族、助産師さん、先生とともにその感動を共有しました。



片桐さん（左）

ポズナン医科大学（PUMS）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 上島 鈴奈

私は、小児腎臓内科と内分泌内科を2週間ずつの計4週間実習させていただきました。小児腎臓内科を実習させていただいた病院はポーランド内でも有数の小児科病院で、各診療科がそれぞれ病棟を所有している大規模な病院でした。そのため、腎臓内科以外に腫瘍内科、呼吸器科、感染症科、循環器科、耳鼻科で実習させていただき、白血病、肺炎、尿路感染症など小児の様々な疾患を学ばせていただき大変勉強になりました。そこでは、現地の英語コースの学生とともに実習をしましたが、イギリス、ノルウェー、スペイン、イタリア、台湾など世界各地から来た留学生と関わり、現地の学生はディスカッションで先生から当てられるまで待つのではなく、



上島さん（右）

積極的に意見を出し合い、活発に議論が交わされる光景を目の当たりにし、見習う点の一つだと感じました。

グラスゴー大学（UofG）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 阪上 あすか

この度、医学教育振興財団の英国短期留学プログラムを通じて英国のグラスゴー大学関連の病院に行く機会をいただき、Glasgow Royal InfirmaryとInstitute of Neurological Sciencesの二つの病院の集中治療科に行きました。学生が周りにいない中で実習することの難しさを実感しながら、自分の位置を確立するために主体的に動き、その結果チームの一員になったことに達成感を感じました。手技や回診プレゼン、シミュレーションなど様々な経験をし、多くを学びました。日本と英国の医療制度だけでなく、医療従事者としての働き方や生き方について考えさせられました。最後になりましたが、背中を押してくれた家族、庶務課・学生課の方々、機会をく



阪上さん（左から4番目）

ださった財団、現地関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

学術国際交流協定大学への看護学部学生留学体験記

看護学部では、米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学フランシス・ペイン・ボルトン看護学部及びシンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科と教員・学生の交流を含む包括的な相互交流を行っています。令和7年3月に看護学部学生7名が留学しました。短期留学を終えた学生の体験記の一部をご紹介します。

ケース・ウェスタン・リザーブ大学短期留学

看護学部4学年次生 村田 亜弥

私が留学に参加した理由は、アメリカの医療や異文化交流に興味があり、未経験のことに挑戦することで、自分自身を成長させる機会になると考えたからです。留学中は大学での授業や演習に加え、ホスピスやがんセンターなど、様々な施設を見学させていただきました。特に印象に残ったのは次の三つです。

まず一つ目は、コミュニティ実習です。看護学生と一緒に地元の小学校を訪問し、児童に対して身体測定を行う様子を見学しました。学生は自分たちで考えて積極的に行動しており、主体性を育むことができる実習だと感じました。

二つ目は、ホスピスの見学です。そこでは看護師、ソーシャルワーカー、ボランティアなど、様々な専門職が連携し、患者さんと家族を支援していました。アメリカでは専門職の役割分担が明確であるため、患者さんのニーズに応じた最善のケアが提供できると感じました。

三つ目は、大学での授業や演習です。授業は予習



修了証を持って記念撮影

を前提に進められ、疑問点があればその場で質問し、すぐに解決する姿勢が印象的でした。こうした学びの姿勢に触れ、自分自身の学習態度にも良い刺激を受けました。

今回の短期留学では、日本語を学んでいる学生との交流もあり、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。留学を通して多くの貴重な体験を得ることができ、一生の思い出となりました。

シンガポール国立大学短期留学

看護学部4学年次生 西川 千夏子

異文化に触れて自分を成長させたいと思い、このプログラムに参加しました。貴重な体験を通して沢山の学びを得ることができました。

シンガポール国立大学では、授業は基本的に英語で行われており、多国籍の学生が集まり、グローバルな視点で学ぶ環境が整っていました。VRを使った手術シミュレーション体験は、想像していたよりも臨場感があり、最新の技術にとっても驚きました。医療福祉施設の見学では、スタッフが言語を使い分けていたり、患者さんが信仰する宗教の礼拝に行くための送迎がなされていたりと、日本にはない多国籍国家ならではの光景があり、異文化共生において文化的、宗教的配慮の重要性を改めて実感しました。

プログラム後には、バディの学生が色々な場所を案内してくれて、おすすめのグルメなど、シンガポールをより知り、より楽しむことができました。最終日には日本での再会を約束するなど、国を超えた友情を築けたことは、私にとってかけがえのない経験



バディとの記念撮影

となりました。

この留学を通じて多文化・多言語社会における看護や、日本の医療について考える機会を得ることができました。また、英語のスキルを上げたいと思うようになりました。今後は異文化への理解を深めて多様な価値観を尊重できる看護師を目指していきたいです。

医学部学外体験実習体験記

令和6年度医学部3学年次の地域包括ケア実習が令和6年9月3日（火）から9月11日（水）にかけて実施されました。地域包括ケアや地域医療、老人保健施設など、社会の様々な場所で医療がどのようにに関わり、貢献できるのか。専門的なケアの現場、チーム医療の連携、利用者様との交流を通じて、教科書では学べない生きた学びを終えた学生の感想文を紹介します。

実習施設：医療法人財団桜会介護老人保健施設 葵の園・長久手
医学部3学年次生 久保田 賢人

今回の葵の園での実習で一番感じたことは、通所リハビリと入所リハビリの違いです。患者さんの背景や心情などあらゆる面で差を痛感しました。今回の地域包括ケア実習の目標の一つにお年寄りの気持ちを知るというものがありますが、それは達成できたのかもしれませんが。通所リハビリの様子はデイケアと比べて、ネガティブな感情を持っている利用者さんが圧倒的に多かったです。自分がお話ししたおばあちゃんは、早く家に帰りたいと何度も口に出していました。おばあちゃんは岐阜県生まれで、岐阜県を出た後は京都府で暮らしていたと聞きました。京都の嵐山に帰りたいと故郷を懐かしそうにしていました。

おばあちゃんは施設内にお友達がおらず、他の人を毛嫌いしている様子でした。それが原因で受け持ちの看護学生の子は心配そうにしていました。自分がおばあちゃんに話しかけると、最初は警戒されていたと思いますが看護学生の子が側にいたということもあり、打ち解けることができました。このとき、自分は医師になった際にどんな性格、価値観の患者さんが来ても信頼され、最適な医療を提供しなければならない、それはとても難しいことなのだなと思いました。驚いたことは、介護施設に勤める医療関係者の方もおばあちゃん的心情や価値観をしっかり理解しているということでした。おばあちゃんとの会話の後、ケアマネジャーさんと話しているとおばあちゃんのことを色々と教えてくれました。自分はそこに医療従事者のプロフェッショナルリズムを感じました。

また、入所リハビリ利用者の殆どを歩けない方が占めており、介護度も高い方が多かったです。気難しい方が多かったですが、一人ムードメイカーのおじいちゃんが声をかけてくれて、大勢の利用者さんとサッカーゲームをすることができました。人の温

かみを感じたのと、気難しい人でも一度信頼されると心を開いてくれる方も多かったので何事も積極性と先に人を信頼するという自分の意識次第だなと思いました。

デイケアでは元気な人が多かったです。デイケアでのリハビリや自分の健康を意識している人よりも麻雀などのゲームをモチベーションにしている利用者さんが多かったです。お話ししていると自分の話を積極的に話してくれる方が多かったです。また、現状に不満がある利用者さんは少なく、おおむね満足している様子でした。あるおじいちゃんに数字を25まで言い切るというゲームを挑まれました。交互に数字を言っていき、最後に25を言ったら負けとなります。学生は全員負けましたが、友達の一人が何度も挑戦して最後は勝っていました。負けたのにおじいちゃんは嬉しそうにしていました。老後に自分なりの趣味や楽しいことがあるというのはとても大切なことだと感じました。思えば、入所リハビリでは朝の体操やテレビや何もかもがルーティーンのようになっており、ネガティブな利用者さんには生きがいがないと言っていました。

入所リハビリ、デイケアそれぞれに違いはありますが、入所リハビリ、デイケアともに人間関係の問題が多くありました。時には喧嘩になることもあるといいます。幾つになっても人と人の価値観のズレはあるのだなと思って悲しくなりました。施設の人は大変そうにしていました。正直、医師が診察する時間はわずか数分で、利用者さんは大半の時間を家や施設で過ごします。医師よりも利用者さんのそういった時間に介入できる看護師、介護士、PT、OT、STさんなどの仕事を今回少し体験できたことは非常に良いものだと思います。また、自分も医師としての仕事以上に、患者さんの生活にも注意したいと思いました。

令和6年度

医学部・医学研究科ベストティーチャー賞表彰

令和6年度の医学部・医学研究科ベストティーチャー賞が決定しましたのでご紹介します。

同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今回は、医学部及び医学研究科から合わせて6名の教員がベストティーチャーに選出されました。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャー賞表彰者は、次のとおりです。

大学院

○医学研究科

- ・丸山 健太教授（薬理学講座）



出席者による記念撮影

学部

○医学部

- ・内藤 宗和教授（解剖学講座）
- ・森田奈央子助教（感染・免疫学講座）
- ・早稲田勝久教授（医学教育センター）
- ・加納 秀記教授（救急診療部）
- ・伊藤 清顕教授（内科学講座(肝胆膵内科)）

看護学研究科特定行為研修修了証授与式挙行

令和7年3月1日（土）午前9時から大学本館役員会議室1において、令和6年度特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

授与式では、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース修了者一人ひとりに対し、祖父江元 理事長から修了証書が授与されました。

続いて、祖父江理事長から「特定行為研修修了者はこれからの医療を担っていく可能性が大いにあります。皆さまの益々のご活躍を期待しています。」との祝辞が述べられ式は終了しました。

* 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース修了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告



授与式後の記念撮影

します（38行為21区分）。また、一般社団法人日本NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験」の受験資格が得られます。

令和6年度大学院統計セミナー開催

令和6年度大学院統計セミナーは、医学研究科及び看護学研究科による合同セミナーとして、計9回開催されました。

本セミナーは、臨床研究支援センターの大橋渉准教授を講師に迎え、医学研究科及び看護学研究科の学生を中心に、病院職員を含めた全教職員を対象として、研究における統計学的分析手法の基礎知識を習得する講義・演習を行うもので、Zoomを用いたオンライン形式で開催されました。開催日及びテーマは、以下のとおりです。



医学研究科及び看護学研究科では、今後も研究力の向上を図って参ります。令和7年度も開催予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。

No.	日 時	テーマ
1	4/24 (水) 午後6時～7時	統計学の基礎
2	6/25 (火) 午後6時～7時	臨床研究と統計的検定
3	7/31 (水) 午後6時～7時	統計的検定 (2)
4	9/25 (水) 午後6時～7時	後ろ向き研究とは？
5	10/25 (金) 午後6時～7時	回帰と相関
6	11/26 (火) 午後6時～7時	ロジスティック回帰
7	1/28 (火) 午後6時～7時	生存時間解析
8	2/26 (水) 午後6時～7時	生存時間解析 (2)
9	3/26 (水) 午後6時～7時	調査票の作成と因子分析

令和6年度卒後臨床研修修了証授与式挙行

令和7年3月6日(木)午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、卒後臨床研修修了証授与式が挙行されました。式は、道勇学病院長を始め、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長、中野正吾卒後臨床研修センター長、専任教員の松村沙織助教及び副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

初めに中野センター長から、医科及び歯科それぞれの代表1名に修了証が手渡されました。中野センター長から「コロナ禍にめげることなくチームで良く助け合った。専攻医となり、症例の経験のみでなく発表や論文に取り組んで欲しい。今まで以上に、患者さんファースト、そして患者さんから学ぶという姿勢を忘れないでほしい。」との告辞があり、そ



授与式後の記念撮影

の後各出席者からの祝辞がありました。

今回修了した医科研修医28名、歯科研修医2名のうち、医科研修医23名が本院の医師として、専門医や学位取得を目指すことになります。本院での臨床研修の経験を活かし、より一層精進されることが期待されます。

令和6年度看護師特定行為研修修了証授与式挙行

令和7年3月12日（水）午前9時から大学本館たちばなホールにおいて、令和6年度看護師特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

本院では、特定行為研修指定医療機関として厚生労働省の認可を受け、令和2年度から看護師特定行為研修を開講しています。院外からの受講生を含むクリティカル領域12名、創傷管理領域5名、ジェネラル領域4名の21名が、講義、演習、OSCE、病院実習を経て、無事に修了式を迎えることができました。式では、特定行為研修管理委員長の井上里恵看護部長から修了証が手渡され、道勇学病院長から今後の活躍を期待する激励の言葉がありました。

特定行為研修を修了した看護師は、医師と治療方針の確認を行い、患者さんの状態を見極め、手順書



修了者との記念撮影

に従って特定行為を実施することができます。患者さんの状態に合わせ、タイムリーに必要な医療行為を行うことで、安心し、満足していただける医療・看護が提供できることを目指していきます。

令和7年度看護師特定行為研修開講式挙行

令和7年4月3日（木）午後2時から大学本館711特別講義室において、令和7年度看護師特定行為研修開講式が挙行され、受講生21名の参加がありました。

本院は、令和2年度に看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、現在はクリティカル領域、創傷管理領域、ジェネラル領域の3領域において特定行為研修を開講しています。本院の特定行為研修では、急性期医療に加え、在宅医療、地域医療までを支えられる人材及び地域・施設間の連携に参画できる人材の育成を目指しています。

開講式では天野哲也病院長から激励の言葉があり、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長から、看護師の役割拡大が求められる中で、特定行為が担う役割や期待されることについて話が



開講式後の記念撮影

ありました。

受講生からは、特定行為研修を通して高度な看護実践を身に付け、社会に貢献できる看護師を目指すという意気込みが伺え、凛とした表情で式に望む姿が見られました。

若葉ナース卒業式挙行

令和7年2月26日（水）大学本館たちばなホールにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。昨年度に引き続き、感染対策として出席者を若葉ナースと新人教育担当者に限定して行われました。部署から届いた成長のお祝いと労いのメッセージをスライドに映し、厳かで温かい卒業式となりました。

この式は今年度で15回目の挙行となり、入職した新卒看護職員が1年間を振り返るとともに、指導に携わった全ての先輩と互いに成長を祝う会となっています。国家資格を取得し、初めて本院に入職した新卒看護職員「若葉ナース」は、名札に初心者マークを付けて看護実践に携わっていますが、この卒業式をもって初心者マークから卒業しました。

式では井上里恵看護部長から新しい名札とともに若葉ナースコース研修を終えて、初めてのクリニカ



井上看護部長による認定証の授与

ルラダー（JNAラダー統合版）認定証が手渡され、新人教育担当者に労いの言葉が掛けられました。

部署では卒業を迎えた若葉ナースと指導をした看護師、責任者とともに1年間を振り返り、若葉ナースの成長の喜びを分かち合いました。

クリニカルラダーレベルV・ASGN認定証交付式挙行

令和7年3月4日（火）午前9時30分から看護部長室において、クリニカルラダーレベルV・ASGN（Aichi Medical University Hospital Super General Nurse）の認定証交付式が挙行されました。

ASGNは、看護部キャリア開発システムにおいてジェネラリストレベルV（特定の看護分野に関わらず、どの対象者に対してもその場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者）の実践能力を設定された看護師です。今回新たに1名が認定され、井上里恵看護部長から認定証が手渡され、ASGNに対する期待が述べられました。

今後は臨床教育者（Clinical Educator）として、部署の指導、医学生や看護学生の臨地実習指導、院



交付式後の記念撮影

内認定制度Educator研修（静脈注射、膀胱留置カテーテル管理及び化学療法管理）のインストラクターとなり、院内研修の企画に携わって参ります。

令和6年度ベストカルテ賞表彰式挙行

令和7年3月4日（火）病院長室において、ベストカルテ賞の表彰式が行われ、令和6年度のカルテから選出された医師には道勇学病院長から表彰状が手渡されました。ベストカルテ賞は、診療各科で記載されたカルテを「チーム医療」、「医療安全」等の観点から評価し、他の模範となり得る者を選出し、特に優秀であると評価されたカルテを作成した医師を表彰する制度であり、令和2年度から導入しています。

良質な医療は優れた診療記載から始まります。近年ではカルテ開示の件数も増え、カルテ記載の重要性が増しています。表彰された医師のカルテ記載方法を模範とすることで、より適切なカルテ記載の能力向上への一助となると期待されます。

ベストカルテ賞を受賞した医師は、次のとおりです。



道勇病院長との記念撮影

- | | | |
|-----|-----------|-----------------|
| 第1位 | 血液内科 | 篠原 早紀助教 |
| 第2位 | 糖尿病内科 | 篠崎 隆裕助教(医員助教) |
| | 糖尿病内科 | 林 優佑助教(医員助教) |
| | 糖尿病内科 | 三浦 梨音助教(専修医) |
| | | (糖尿病内科はグループで受賞) |
| 第3位 | 歯科口腔外科学講座 | 古橋 明文准教授(特任) |

ナラティブレポート優秀賞授与式挙行 ～患者の求める看護師像とは～

令和7年3月31日（月）午前11時から看護部長室において、ナラティブレポート優秀賞の授与式が挙行され、代表として7A病棟の加藤圭人看護師が表彰されました。ナラティブレポートとは、看護師が患者との関わりを通じて得た経験を物語として記述し、看護実践を振り返り学びを得るレポートのことです。看護部ではナラティブレポートを看護実践の振り返りの場として活用し、専門性及びスキルの向上を目指しています。また、患者さん一人ひとりの物語を深く理解し、個性に応じた看護を提供することに繋がっています。

令和6年12月14日（土）開催のナーシングフェスタ2024では、初の試みとして、個々の学びを看護職員で共有し看護の質向上に繋げること、若手看護職員の看護実践に対する承認の場とすることを目的にナラティブレポートの展示が行われました。各部署から選出されたクリニカルラダーⅠ・Ⅱの看護職員45名によるレポートが展示され、優れたナラティブレポートを表彰し、次の方が受賞されました。

今後もこの取り組みを継続し、看護の質向上に繋げるとともに、ナラティブに語ることが看護のやりがいを感じることに繋がるよう、取り組んで参ります。



授与式後の記念撮影

【看護部長賞】

加藤圭人「患者の求める看護師像とは」

【看護の語り優秀賞】

鈴木美咲「終末期患者の意思決定と看護」

浅野萌々菜「移植患者の家族支援を通しての学び」

【心に響いたで賞】

柳月乃「患者に寄り添うとは」

三浦安加里「人生の最終段階における患者の意思決定支援への援助」

【素敵な気づきで賞】

遠藤優月「自殺企図にて入室になった患者の看護を振り返る」

山内光「患者との関わりを通じて感じた寄り添う看護」

令和6年度第2回看護師特定行為研修指導者講習実施

令和7年2月22日（土）にシミュレーションセンターにおいて、本院看護部看護師特定行為研修センター主催の第2回看護師特定行為研修指導者講習が実施されました。本センターでは、厚生労働省「看護師の特定行為に係る指導者等育成事業」として指導者講習会を開催しており、令和6年12月1日（日）に続き2回目の講習となりました。

本講習は、特定行為研修制度の趣旨及び内容等について、指定研修機関と協力施設における指導者の理解を促進し、効果的に指導を行うことができる指導者を養成することで、特定行為研修の質の担保を図ることを目的としています。

今回は、多くの施設から医師及び看護師など多職種の参加があり、特定行為研修の概要を始め、特定



講習を受ける様子

行為研修の能力評価方法やフィードバックの方法について学びました。施設による体制の違い、多職種協働の実態を知ることができ、これからの特定行為研修指導に活かすとともに、特定行為研修修了者の活動支援についても考える機会となりました。

令和6年度第1回本院看護師特定行為研修シンポジウム開催

本院看護部特定行為研修センターは、令和2年度に特定行為に係る看護師の研修制度の指定研修機関となり、多くの特定行為修了者を輩出してきました。

令和7年3月22日（土）午前9時30分からシミュレーションセンターにおいて、第1回愛知医科大学病院看護師特定行為研修シンポジウム「看護管理者の視点から考える特定行為研修修了者の活用」が開催されました。【写真】今回は現地及びオンラインのハイブリッド形式で開催され、89名の参加がありました。

第1部の特別講演では、医療法人鉄蕉会亀田総合病院急性重症患者看護専門看護師の飯塚裕美看護副部長をお招きし、「看護管理者としてガバナンスの向上のための実践～特定行為研修を修了した看護師の活用～」をテーマに、看護管理者はどのように特定行為研修修了生を活用していくのかについてお話しいただきました。

第2部のシンポジウムでは、「看護管理者の視点



から考える特定行為研修修了者の活用」をテーマに、本院精神科病棟の佐藤義明看護師長、公益社団法人有隣厚生会富士病院クリティカルケア認定看護師の林尚三看護師長、医療法人香徳会かしのき訪問看護ステーションの伊藤亜由美所長（特定行為研修修了者）を加えた4名から、それぞれの立場での特定行為研修修了者の活用について発表いただき、その後ディスカッションを行いました。

全体を通じて、特定行為及び特定行為研修修了者をどのように活用していくことが看護の質の向上に繋がるのか、深く考える機会となりました。

看護部職場体験開催

令和7年3月4日（火）から19日（水）にわたり、
本学看護学部生及び他大学看護学生3学年次生を対象とする看護部職場体験が開催され、来院型には看護学生149名の参加がありました。

看護部の教育体制や福利厚生に関する説明の後、
外来、救急外来及びドクターヘリ等を見学し、新人
看護師が配属される部署で看護師と一緒に看護ケア
を行いました。体験後には、「先輩看護師と職場体
験することで、看護師の業務内容や看護体制、病棟
の特徴などを知り、実際の現場を体感することがで
きた。」などの感想がありました。

また、福岡・広島・福井などの遠方の学生に対し
てZoom型の職場体験が開催され、15名の参加があ
りました。新人看護師が配属される部署の「大切に
している看護」、「部署での様子」を写真やイラスト
にして紹介したところ、「自分が興味のある部署を
知ることができ、職場体験会で得た知識を自身の看護
に活かせるよう、より一層学業に励んで参ります。」
と参加者からお礼の手紙を頂きました。短い
期間でしたが看護を志す学生と貴重な時間を共有す
ることができました。

令和7年度新規採用職員ガイダンス開催

令和7年4月1日（火）に本学新規採用病院職員
（採用・帰局医師、臨床研修医、看護職員及び医療
職員等）計339名を対象として、新規採用職員ガイ
ダンスが開催されました。大学本館たちばなホール
と講義室合わせて3会場において行い、講義内容は
事前に撮影した映像を視聴する形式としました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始
めとする各部門の院内ルールの周知徹底を目的に開
催しています。まず、天野哲也病院長から「病院の
概要及び経営方針」の説明や新規採用職員に対する

メッセージがあり、その後、各部門の責任者から主
要部署の業務内容、医療安全管理及び感染予防対策
等の説明が行われました。どの講義も日常の診療業
務に直ちに反映されるものばかりであり、参加した
新規採用者は真剣な表情で受講していました。

今年度途中に採用される病院職員に対しても同様
のガイダンスを行い、愛知医科大学病院の職員とし
て必要な基本事項を習得した上で従事していただき
たいと考えております。

令和7年度臨床研修医ガイダンス開催

令和7年4月1日（火）から8日（火）まで、新
規採用医科研修医29名及び歯科研修医3名を対象と
して、本院における臨床研修に必要な基本的な事項
についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されま
した。

ガイダンスは、卒後臨床研修センターの中野正吾
センター長による「医師としての心構え」の講話か
ら始まり、その後の自己紹介の時間では互いの距離
を縮める有意義な一時となりました。

続いて、メディカルセンター看護部外来の大高通

代看護師長を中心に、感染管理室による感染予防演
習及び臨床工学部による各種医療機器の使用 method
などの演習が行われました。また、加納秀記副セン
ター長の指導の下、BLS講習会が行われ、救命救急に
ついての指導があったほか、研修医向けにローテイト
予定の診療科紹介時間を設け、希望のあった23診療
科がそれぞれ科の特徴や指導内容について紹介しま
した。

このガイダンス内容は、研修医にとって将来必ず
役立つものと期待されます。

メディカルセンター令和6年度第2回防災訓練実施

令和7年2月13日（木）から25日（火）までの間、愛知医科大学メディカルセンターにおいて令和6年度第2回防災訓練が実施されました。例年、第1回の防災訓練では日中に発災したことを想定した訓練が行われ、第2回には夜間・休日想定避難訓練が行われています。

今回の訓練は、「夜間・休日の人手不足下での災害時の対応確認及び職位への意識付け」、「夜間・休日における職員不足により発生する改善点・問題点の洗い出し」、「医師（病院長代行）と職員との連携体制の確立」を目的に掲げました。訓練の開催規模を各病棟及び外来単位とし、それぞれの現場の特性を鑑みて「初動被害確認、通報、初期消火、避難誘導」を含むシナリオが作成されました。また、第2回の訓練としては医師が初めて参加し、被災時の行動の確認が行われました。

参加者からは「今まで当直時の病院長代行という認識はあってもどのように行動すれば良いか分からなかったが、理解できたのと同時に行うべき行動の多さに驚いた。」、「日頃から一人ひとりの役割をしっ



病棟の被害状況報告



ベッド搬送からエアーストレッチャー搬送への切り替え

かりと認識できると良い。」等の声が聞かれました。

来年度以降も、より実働性の高い訓練の実施に努めて参ります。

メディカルセンター第3回奥殿学区春祭り出展

令和7年3月29日（土）岡崎市立奥殿小学校において、第3回奥殿学区春まつりが開催されました。春まつりは初回開催以降初となる晴天に恵まれ、会場には多くの方が来場し、地域交流を楽しまれました。

メディカルセンターからは多職種が参加し、看護師による血圧測定、管理栄養士によるお米の計量チャレンジ、診療看護師による骨粗鬆症講座をブースに出展しました。特に骨粗鬆症講座では、参加者から「自分の骨密度がどのくらい気になる。」、「骨折予防のために食事や運動で注意すべきことを知ることができた。」との感想があり、地域の方々への啓発活動ができました。

今後もメディカルセンターでは地域のイベントへ積極的に参加し、地域交流及びセンターの知名度向上に努めて参ります。



血圧測定・お米の計量チャレンジブース



骨粗鬆症講座の様子

眼科クリニックMiRAI令和6年度防災訓練実施

令和7年3月13日（木）眼科クリニックMiRAIにおいて、令和6年度防災訓練が実施されました。南海トラフ巨大地震発生時における名古屋市東区の予想震度である震度6弱の揺れにより、クリニック地下室で小火が発生したケースを想定し、災害が発生した際の各自の具体的な動きを確認することを目的としています。

当日は、眼科クリニックMiRAI消防計画に基づいて作成された対応フローに則り訓練が行われ、訓練後は委託業者から消火器の使用方法について講義が行われました。

また、訓練後の振り返りでは、「手術室や診察室側のバックヤードでアナウンスが聞こえにくかった。」「アクションカードの内容や行動フローの見直し、改めて消火栓や消火器の設置場所、防火扉の位置など消防に関する知識を確認する場を設けてはどうか。」などの意見がありました。

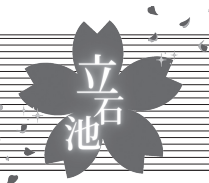


火災通報装置を使用する防火管理者
(眼科クリニックMiRAI事務室の丹羽克也部長)

なお、本クリニックはマンション（東桜スカイハイツ）内にあることから、今回の防災訓練にはマンションの住民代表の方2名にもご参加いただきました。

火災発生時に職員が適切で円滑な対応ができるよう、今後もより一層実用性のある訓練の実施に努めて参ります。

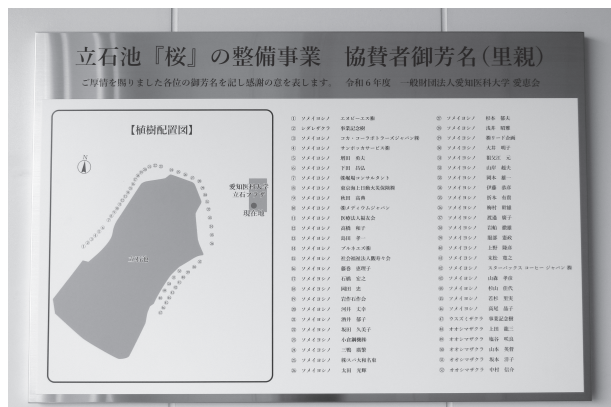
一般財団法人愛知医科大学愛恵会トピックス 立石池「桜」の整備事業



一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、立石池の桜の健全な維持と保全をはかるべく、長久手市の承認を得て令和5年4月から立石池「桜」の整備事業を進めて参りました。令和6年2月に19本、令和7年2月に31本、記念樹2本（ウスズミザクラ及びシダレザクラ）計52本全ての桜の植樹が完了し、併せて環境整備（除草、伐採等）が実施されました。今後は植樹した桜の成育を見守りながら、樹木の剪定・施肥・除草・伐採（既存桜が枯死した場合）を行い、立石池の桜と緑地帯の維持管理を続けて参ります。

また、令和7年3月27日（木）立石プラザ1階西側開放部の北側壁において、整備事業に協賛いただいた方々の法人名及び氏名を記名した銘板が設置されました。

本事業により、立石池の桜は再び愛知医科大学とともに悠久の時を刻んで参ります。



設置された銘板

【立石池の桜】

新たに植樹した桜

ソメイヨシノ	45本
オオシマザクラ	5本
ウスズミザクラ	1本
シダレザクラ	1本

古木

ソメイヨシノ	32本
--------	-----

計 84本

福澤 嘉孝名誉教授 一般社団法人日本栄養治療学会特別会員に推戴

福澤嘉孝名誉教授【写真】が、令和7年2月13日（木）午後3時からパシフィコ横浜ノースで開催された一般社団法人日本栄養治療学会（JSPEN）第12回定時社員総会の名誉会員・特別会員推戴式において、同会の特別会員に推戴されました。

同会は栄養治療の普及と正しい理解を深めることを目指しており、特別会員への推戴は、福澤名誉教授が長年にわたり同会の発展へ貢献したことが評価されたもので、全国会員約25,000名から7名が推薦されました。

推戴を受けた福澤名誉教授からは、「このたびのJSPEN（世界最大の医療従事者会員数を誇る栄養治療関連の学会）からの特別会員への推戴につきまして、大変光栄に思っております。これも一重に、長年にわたる皆さまからのご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。このような素晴らしい推戴状を授与されたことは過分な栄誉と感じており、今後も決して驕ることなく、一層謙虚な気持ちで、栄



養治療の普及と発展に貢献していく所存です。本学、本院、社会及び医療の現場において、微力ながらも誠心誠意尽力し、少しでも患者さんの栄養治療に役立つ存在となれるよう努力を重ねて参ります。皆さまの引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。」との感想がありました。

福澤 嘉孝名誉教授・川上 智史客員研究員 一般社団法人日本先制臨床医学会最優秀学術論文賞受賞

福澤嘉孝名誉教授及び尚絅学院大学健康栄養学群健康栄養学類の川上智史准教授（本学客員研究員）が、令和7年4月14日（月）の一般社団法人日本先制臨床医学会（JSPCM）理事会・監事会において、最優秀学術論文賞【写真】を受賞しました。

この賞は、学術誌「Annals of Clinical and Medical Case Reports (ACMCR)」に掲載された福澤名誉教授、川上准教授及び医療法人愛喜会前田医院の前田裕輔副院長らによる研究原著論文「Intervention Study Comparing Blood NAD+ Concentrations with Liposomal and Non-Liposomal Nicotinamide Mononucleotide」が世界的NMNの研究の更なる発展に影響を与えるとともに、世界的権威のあるNMN.comに掲載されるなど、今後の先制臨床医学の飛躍・進展に寄与するものとして評価されたものです。

論文責任著者である福澤名誉教授からは、「この



度、私達の共同研究が、ACMCRへの掲載に加え、NMN.comや本学HPへの掲載、更にはJSPCMからの最優秀学術論文賞受賞という栄誉に預かり、心より感動しております。多くのご支援とご指導に深く感謝申し上げます。今後も謙虚な姿勢を忘れず、臨床医学発展と社会・医療貢献を目指して邁進して参ります。」との感想がありました。

感染制御部 高山 美奈臨床検査技師 日本臨床微生物学会日本ペクトン・ディッキンソン賞受賞

感染制御部の高山美奈臨床検査技師が、令和7年1月24日（金）から26日（日）に名古屋国際会議場で開催された第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会において、日本臨床微生物学会日本ペクトン・ディッキンソン賞を受賞しました。

この賞は、高山臨床検査技師が執筆した論文「市販薬組み合わせによる腸内細菌目細菌を対象としたESBL, AmpC, MBL検出法の検討」が、当該年に発行された日本臨床微生物学会雑誌に投稿された原著または症例報告の中から優れた論文として評価されたものです。

受賞した高山臨床検査技師からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。本論文



高山臨床検査技師（左）

の執筆に当たりご指導を賜りました先生方へ心より感謝申し上げます。今後も精進して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。」との感想がありました。

事務職員資格・検定取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針のもと、事務部門では、「具眼」に当たる具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。令和6年度は延べ人数で8名の事務職員が、以下に掲載している資格・検定試験の他に

SNSリスクマネジメント検定やがん登録実務初級認定者認定更新試験といった、各担当業務に直結する試験等を受験し合格しました。今後は習得した知識や技能を業務に活かしながら、更なる自己研鑽による成長が期待されます。

取得日	資格・検定試験名等	所属	氏名
R 6. 6. 30	ビジネス文書技能検定1級	人事・厚生室	山口 智之 主任
R 6. 7. 15	生成AIパスポート試験	医事管理部	深谷 綾子 主任
R 6. 8. 19	Webクリエイター能力認定試験／HTML5スタンダード	総務広報課	荒島 大輝 主事
R 6. 10. 31	Microsoft Office Specialist Word 365	医事管理部	増田 阿耶 主任
R 6. 11. 3	メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種（ラインケアコース）	人事・厚生室	山口 智之 主任
R 6. 11. 29	診療情報管理士通信教育付加コース腫瘍学分類コース	医事課	杉浦 芳奈 主事

※氏名掲載は希望者のみ。資格・検定試験等の合格時の所属と役職を記載

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



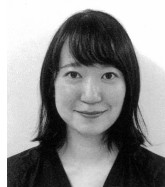
木下 航平

学位授与番号 甲692号

学位授与年月日 令和7年2月13日

論文題目：「Novel factors potentially initiating acute antibody-mediated

rejection in pig kidney xenografts despite an efficient immunosuppressive regimen (効率的な免疫抑制療法で管理されたブタ-ヒト異種腎移植の急性抗体関連型拒絶反応を惹起する新規要因)」



恩田 真帆

学位授与番号 甲693号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Inhibition of VEGFR2 and EGFR signaling cooperatively

suppresses the proliferation of oral squamous cell carcinoma (口腔扁平上皮癌の増殖はVEGFR2とEGFRの両阻害によって協調的に抑制される)」



加藤 駿介

学位授与番号 甲694号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Use of SATB2 and CDX2 immunohistochemistry to

characterize and diagnose colorectal cancer (SATB2およびCDX2免疫組織染色を用いた大腸癌の特徴づけと診断)」



小島 昭司

学位授与番号 甲695号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Associations between Degenerative Lumbar Scoliosis

Structures and Pain Distribution in Adults with Chronic Low Back Pain (慢性腰痛患者における腰椎変性側弯構造と疼痛強度・疼痛部位の関連性)」



牛腸 沙織

学位授与番号 甲696号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Comfort distance between patients and pharmacists

during medication instruction: A prospective observational study at a cancer chemotherapy center (外来においてがん化学療法を実施中の患者に対する服薬指導時の患者と薬剤師の最適な距離を明らかにするための前向き観察研究)」



鈴木 頼快

学位授与番号 甲697号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Clinical outcomes of percutaneous coronary

intervention for severely calcified lesions: comparison between the morphologies of severely calcified coronary lesions (重症石灰化病変に対する経皮的冠動脈インターベンションの臨床成績: 重症石灰化冠動脈病変の形態間の比較)」



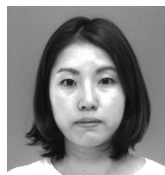
名仁澤 英里

学位授与番号 甲698号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Short-term high-fat and high-carbohydrate diets

increase susceptibility to liver injury by inducing hepatic procoagulant and proinflammatory conditions with different balances (短期間の高脂肪食および高糖質食の摂取は凝固と炎症を異なるバランスで制御することで肝障害に対する感受性を亢進させる)」

**花井 莉菜**

学位授与番号 甲699号

学位授与年月日 令和7年3月1日

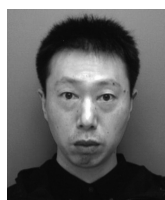
論文題目：「Effects of 10-Hydroxy-2-decanoic Acid and 10-Hydroxydecanoic Acid in Royal Jelly on Bone Metabolism in Ovariectomized Rats: A Pilot Study (ローヤルゼリーに含まれる10-ヒドロキシ-2-デセン酸と10-ヒドロキシデカン酸が卵巣摘出ラットの骨代謝に及ぼす影響：パイロット研究)」

**VU QUANG LAM**

学位授与番号 甲700号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「MAIT Cells in the Bone Marrow of Patients with Aplastic Anemia (再生不良性貧血患者の骨髄中のMAIT細胞)」

**本間 仁**

学位授与番号 甲701号

学位授与年月日 令和7年3月1日

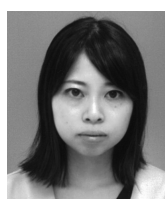
論文題目：「Serum salicylic acid levels in children with Kawasaki disease (小児川崎病患者における血清サリチル酸濃度の検証)」

**福田 雪菜**

学位授与番号 甲702号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Predicting the effect of pharmacist's communication with patients: medical communication analysis using facial responses (薬剤師による患者とのコミュニケーションの分析：表情の変化を用いた医療コミュニケーション分析)」

**渡辺 瞳**

学位授与番号 甲703号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Therapeutic Effectiveness of Needle Injection Versus Needle

-Free Jet Injector System for Botulinum Toxin Type a in Palmar Hyperhidrosis (手掌多汗症におけるノンニードルインジェクターシステムを用いたA型ボツリヌス療法の臨床的検討)」

**西塔 誠幸**

学位授与番号 甲704号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「Evaluation of the intramammary distribution of breast lesions detected by MRI but not conventional second-look B-mode ultrasound using an MRI / ultrasound fusion technique (MRI / US fusion技術を用いたMRIにて検出されたが通常のsecond-look USにて検出困難な乳房病変の乳房内分布の評価)」

**単 西瑠**

学位授与番号 甲705号

学位授与年月日 令和7年3月1日

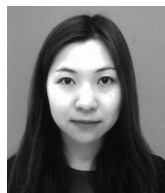
論文題目：「Assessing site-specificity of the biomechanical properties of hamstrings aponeuroses using MyotonPRO: a cadaveric study (デジタル組織硬度計(Myoton PRO)を用いたハムストリングスの腱膜の力学的特性の調査と部位差の検討～解剖体を対象として～)」

**寺嶋 祐貴**

学位授与番号 甲706号

学位授与年月日 令和7年3月13日

論文題目：「The effects of lowering barometric pressure on pain behavior and the stress hormone in mice with neuropathic pain (神経障害性疼痛マウスにおける低気圧の疼痛行動およびストレスホルモンへの影響)」



杉山 冴子

学位授与番号 甲707号

学位授与年月日 令和7年3月21日

論文題目:「Administration of Young Coconut (*Cocos nucifera* L.) Juice

Ameliorates Memory Impairment in a Menopausal Rat Model (ヤングココナツツ(*Cocos nucifera* L.) ジュースは閉経後ラットモデルの記憶障害を改善する」



DARAMJAV NARANTSATSRAL

学位授与番号 甲708号

学位授与年月日 令和7年3月21日

論文題目:「Evaluation of Plasma Arginine Vasopressin During

Hypertonic Saline Loading: A Comparison of Radioimmunoassay and Liquid Chromatography – Tandem Mass Spectrometry (高張食塩水負荷試験における血漿アルギニンバゾプレシンの評価: ラジオイムノアッセイと液体クロマトグラフィータンデムマススペクトロメトリーとの比較)」



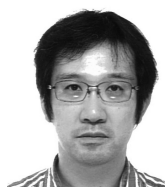
校條 由紀

学位授与番号 乙438号

学位授与年月日 令和7年2月13日

論文題目:「A rat model for acute limb ischemia using micro sized

gelatin beads (マイクロゼラチンビーズを用いたラット急性下肢虚血モデルの開発)」



西平 守邦

学位授与番号 乙439号

学位授与年月日 令和7年2月13日

論文題目:「Low skeletal muscle mass index is independently associated

with low bone mineral density in kidney transplant recipients: a retrospective observational cohort study (腎移植患者において低骨格筋量指数は骨密度低下と独立して関連する: 後ろ向き観察コホート研究)」



三原 誠

学位授与番号 乙440号

学位授与年月日 令和7年2月27日

論文題目:「Lymphatic venous anastomosis and complex

decongestive therapy for lymphoedema: randomized clinical trial (リンパ浮腫に対する保存療法群(CDT群)と、保存療法とリンパ管静脈吻合術の併用群(LVA群)との治療効果検証: 無作為化比較試験)」

◆大学院看護学研究科



渡邊 勇太

学位授与番号 第188号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目:「母親が捉えた医療的ケア児へのきょうだいの関わり」



林 瑞穂

学位授与番号 第189号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目:「COVID-19パンデミック初期にCOVID-19患者看護に従事した看護師の仕事の資源の認識に関する実態調査」



浅井 美保

学位授与番号 第190号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目:「地域包括ケア病棟の看護師が行う退院後訪問の経験」



大森 翔太

学位授与番号 第191号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目:「Rapid Response Systemにおける診療看護師(NP)の実践」



佐藤 知史

学位授与番号 第192号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「診療看護師（NP）のキャリア・プラトリー化とキャリア成熟性

に関連する要因」



柴田 年広

学位授与番号 第193号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「看護学生の職業的価値観とグリットがキャリア・アダプタ

ビリティに与える影響についての調査」



柴田 涼

学位授与番号 第194号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「ドクターカーに従事するグラウンドナースの家族への看護

実践」



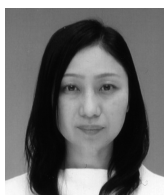
白柳 葵

学位授与番号 第195号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「舌がんの部分切除術を受けた患者の食事場面における心理

社会的影響に関する経験」



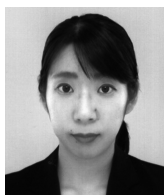
中井 公仁枝

学位授与番号 第196号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「中堅看護師が認識する職務特性とソーシャルキャピタルが

看護実践能力に及ぼす影響」



中村 恵理

学位授与番号 第197号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「看護学生の不眠症に関する要因～ICT機器の使用に着目

して～」



並木 結美菜

学位授与番号 第198号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「気管切開患者のカフ上発声に関する文献レビュー」



松岡 瞳

学位授与番号 第199号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「精神科病棟師長が経験したストレスの経時的変容とその契

機」



山口 千里

学位授与番号 第200号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「中堅期にある市町村保健師の心理的安全性の実態」



山田 竜也

学位授与番号 第201号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「診療看護師（NP）の超音波診断装置を活用した実践」



山田 悠斗

学位授与番号 第202号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「手術室経験がある特定行為研修を修了した看護師が行う麻

酔管理業務における看護実践」



吉川 修矢

学位授与番号 第203号

学位授与年月日 令和7年3月1日

論文題目：「診療看護師（NP）の実践する退院支援」

研究助成等採択者

◇公益財団法人堀科学芸術振興財団 2024年度（第33回）研究助成事業・若手研究者支援

・氏 名 垣田博樹（周産期母子医療センター・准教授）

研究題目 HPA axisの変容，グリア機能異常を介した母子分離による新生児脳障害の解明

助成金額 2,000,000円

・氏 名 榊原伊織（生理学講座・講師）

研究題目 エピゲノムを介した運動誘導性の骨格筋転写制御機構の解明

助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人堀科学芸術振興財団 2024年度（第33回）研究助成事業・新規研究開発

・氏 名 丸山健太（薬理学講座・教授）

研究題目 痛覚神経の内分泌を介した脳保護によるウイルス耐性機構の解明

助成金額 10,000,000円

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

私立学校法改正に伴う規則整備

改正私立学校法（令和7年4月1日施行）において定められた事項に対応するため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学内部統制システムの整備の基本方針
- ・学校法人愛知医科大学リスク管理規程
- ・学校法人愛知医科大学コンプライアンス推進規程

【一部改正】

- ・理事会の運営方針
- ・学校法人愛知医科大学役員の報酬等の支給の基準
- ・学校法人愛知医科大学役員定年規程
- ・学校法人愛知医科大学監査規程
- ・学校法人愛知医科大学特定個人情報取扱規程

就業規則の一部改正等

法改正に伴う看護休暇の名称及び運用の変更等に必要な事項を定めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学就業規則
- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学看護休暇に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休暇に関する規程

働き方改革の実施に伴う臨床系教員の勤務時間等の特例に関する規程の一部改正

学校法人愛知医科大学働き方改革の実施に伴う臨床系教員の勤務時間等の特例に関する規程の一部が改正され，家庭状況等の都合により通常勤務が困難な臨床系教員の勤務に関し必要な事項が定められました。

施行日は令和7年4月1日

管理職規程の一部改正等

基礎医学部門等の技術職員（助手）の職制を改めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構規程
- ・愛知医科大学研究創出支援センター規程
- ・愛知医科大学災害医療研究センター規程
- ・愛知医科大学加齢医科学研究所規程
- ・愛知医科大学分子医科学研究所規程

給与規程の一部改正等

令和6年人事院勧告に対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・学校法人愛知医科大学給与規程施行細則
- ・愛知医科大学病院臨床研修医の服務、処遇等に関する規程

駐車料金変更に伴う規則整備

職員・学生駐車場及び外来駐車場に関し、設備維持のための費用増加に伴い、駐車料金を見直すため、以下の関係規則が整備されました。

【一部改正】 施行日：令和7年4月1日

- ・愛知医科大学構内における車両の規制に関する規程
- ・愛知医科大学学生の自動車による通学及び駐車に関する規程
- ・学生の自動車による通学及び駐車に関する規程の運用について（学長裁定）

【一部改正】 施行日：令和7年5月6日

- ・学校法人愛知医科大学第1駐車場管理規程
- ・学校法人愛知医科大学第20駐車場（外来平面駐車場）管理規程

大学学則の一部改正等

医学部附属施設としてクリニカルアナトミーセンターの新設、看護学部附属施設である看護実践研究センターの廃止及び看護学部附属施設にヘルスケア共創センターの新設に関し必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学医学部附属クリニカルアナトミーセンター規程
- ・愛知医科大学医学部附属クリニカルアナトミーセンター運営委員会規程
- ・愛知医科大学看護学部附属ヘルスケア共創センター規程
- ・愛知医科大学看護学部附属ヘルスケア共創センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学看護学部附属ヘルスケア共創センターの部門の組織等に関する規程
- ・ヘルスケア共創センター及び各部門の英文名称

について（学長裁定）

【一部改正】

- ・愛知医科大学学則
- ・看護学部及び大学院看護学研究科の教育研究に関する重要な事項で教授会及び研究科委員会の意見を聴くことが必要なもの（学長裁定）
- ・愛知医科大学看護学部運営委員会規程

【廃止】

- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センターの部門の組織等に関する規程

安全保障輸出管理規程の一部改正

愛知医科大学安全保障輸出管理規程の一部が改正され、研究機関等における技術、貨物等の輸出管理に関し必要な事項が整備されました。

施行日は令和7年4月1日

病原体等安全管理規程の制定等

本学における病原体等の管理に関し必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病原体等安全管理規程
- ・愛知医科大学病原体等安全管理委員会規程

学生相談室規程の一部改正等

学生相談室における管理職、業務、役割分担等に関し必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・管理職手当に関する細則
- ・愛知医科大学学生相談室規程

医学部履修規程の一部改正

愛知医科大学医学部履修規程の一部が改正され、カリキュラム及び試験名称が改められました。

施行日は令和7年4月1日

大学院学則の一部改正等

課程名称変更予定であった看護学研究科修士課程について、名称変更を行わないこととなったため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学大学院学則
- ・愛知医科大学学位規程
- ・愛知医科大学大学院看護学研究科長期履修制度規程

看護学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科履修規程の一部が改正され、博士後期課程設置に伴いカリキュラム等の必要な事項が整備されました。

施行日は令和7年4月1日

病院規程の一部改正等

中央診療部の一つであったNP部を病院直下の組織に変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院NP部規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院規程
- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院NP部規程（令和4年4月1日制定）
- ・愛知医科大学病院NP部運営委員会規程（令和4年4月1日制定）

中央診療部に関する規程の一部改正等

中央診療部に新たに肺胞蛋白症センター及び間質性肺疾患センターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年5月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院肺胞蛋白症センター規程
- ・愛知医科大学病院肺胞蛋白症センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院間質性肺疾患センター規程
- ・愛知医科大学病院間質性肺疾患センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部が改正され、インフォームド・コンセントの手順等が改められました。

施行日は令和7年4月1日

メディカルセンター安全衛生管理組織規程の制定

愛知医科大学メディカルセンター安全衛生管理組織規程が制定され、メディカルセンターにおける安全衛生体制の整備に関し必要な事項が定められました。

施行日は令和7年4月1日

編 集 後 記

☆ 2025年日本国際博覧会が大阪で幕を開け、賑わいを見せています。古代ローマ時代の彫刻の展示もあれば、空飛ぶ車で科学の未来を見せてくれる展示もあります。

さて、最初の大阪万博は1970年、愛・地球博は2005年に開催されました。当時の本学を振り返りますと1970年はまだ姿形もなく、校地獲得に奔走して翌71年に大学設置認可を受けました。05年には本学の新たな行動指針として、「選ばれる医科大学」、「安心・親切・快適」、「自主自立・向上・協調」が定められました。いずれも本学における大きな時代の節目に当たります。

医療は常に新しく変化し続ける分野ですが、過去の続きに今があり、今の続きに未来があります。本学における医学・看護学の発展に健闘された先人に敬意を払い、この素晴らしい学びの場を次世代に繋げていけるよう努力を惜しまずにいきましょう。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。



X



Instagram

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第178号

発行年月日 令和7年4月30日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 祖父江 元

編 集 人 羽根田 雅巳

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 62-1063 (直通)